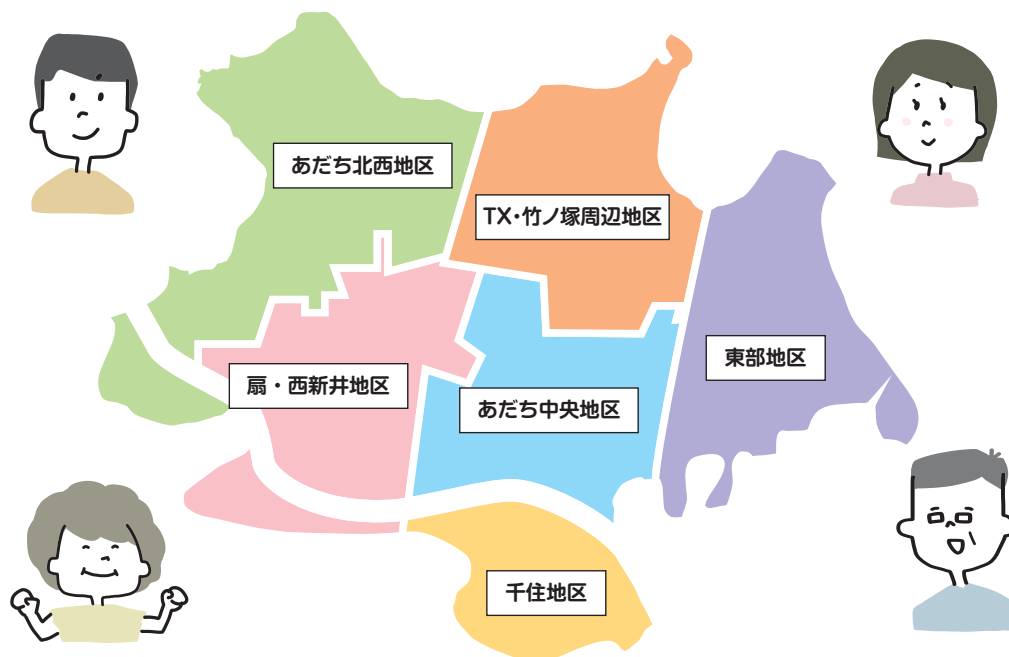


# 第29回あだちまちづくりフォーラム 事業報告書

テーマ「あだちの地域特性を大切にするまちづくり」

足立のまちをもっと知って、楽しいまちづくり!



足立区まちづくり推進委員会  
第29回あだちまちづくりフォーラム実行委員会

# 足立区まちづくり推進委員会について

## 1 まちづくり推進委員会とは？

足立区ユニバーサルデザインのまちづくり条例第26条に基づき、住民主体で協働によりまちづくりを推進していくために設置された組織。メンバーはまちづくり推進委員（38名）とまちづくりカウンセラー（25名）により構成されている。それぞれ区長が委嘱。任期は3年。（人数は令和元年11月30日現在）

### （1）まちづくり推進委員

町会・自治会連合会等、商店街振興組合連合会、地域のまちづくり団体、女性団体連合会、足立区中学校PTA連合会等から選出された地域のまちづくりの相談役である。

### （2）まちづくりカウンセラー

公募カウンセラー、東京都建築士事務所協会、東京土地家屋調査士会、東京都宅地建物取引業協会、全日本不動産協会、研究者で構成されているまちづくりに関する豊富な知識と経験を持つ専門家として、推進委員とともに地域のまちづくり活動を支援している。

## 2 活動内容

（1）協働によるまちづくりの推進及び区内のまちづくりの促進や、地域のまちづくり活動等の情報交換を行っている。

（例）花畑、北綾瀬、綾瀬、西新井、江北、竹の塚地区などのまちづくり連絡会・協議会等へ参加し、まちづくり活動の推進に努めている。

（2）まちづくり研鑽のために、まちづくり先進都市等の視察を行っている。

（3）まちづくりの啓発、まちづくり団体等の育成と活動の発表の場として、「まちづくりフォーラム」を開催している。

（4）まちづくりに関する区の施策について、区長に意見・提案をしている。

（例）都市計画マスタープラン策定手続きでの意見の聴取（10年に1回）

（5）その他、区民が必要とするまちづくりの調査・研究に関すること。

（例）フォーラムを契機とした研究班を母体としたグループにより、まちづくりの支援活動を続けている。

# 目 次

	ページ
1. フォーラム開催内容 .....	2
2. 参加人数 .....	3
3. コメンテーター プロフィール紹介 .....	4
4. 主催者挨拶 .....	5
5. 来賓挨拶 .....	6
6. 調査研究発表内容とコメント紹介	
(1) 千住地区部会 .....	8
(2) 東部地区部会 .....	15
(3) あだち中央地区部会 .....	20
(4) あだち北西地区部会 .....	30
(5) TX・竹ノ塚周辺地区部会 .....	38
(6) 扇・西新井地区部会 .....	46
7. 区長コメント .....	54
8. 講評 .....	55
9. 閉会挨拶 .....	59
10. 参考資料 .....	60
(1) まちづくり推進委員会活動紹介パネルの展示	
(2) アンケート集計結果	

# 1. フォーラム開催内容

## 第 29 回あだちまちづくりフォーラム 次第 テーマ「あだちの地域特性を大切にするまちづくり」

日時：令和元年 11 月 30 日（土）13：15～  
会場：足立区役所中央館 2 階庁舎ホール  
主催：足立区まちづくり推進委員会  
後援：足立区

### プログラム

<b>1 オープニングセレモニー</b>	<b>13：15～</b>	
・ 開会・主催者挨拶	まちづくり推進委員会委員長	白井 淨
・ 来賓挨拶	近藤 やよい 足立区長	
	羽住 奎	足立区町会・自治会連合会会長
・ コメンテーター紹介		
<b>2 調査研究発表とコメント</b>	<b>13：30～</b>	
(1) 千住地区部会	東京農業大学	鈴木 誠 氏
	足立区総合防災行政アドバイザー	松尾 一郎 氏
(2) 東部地区部会	東京電機大学	山田 あすか 氏
	足立区総合防災行政アドバイザー	松尾 一郎 氏
(3) あだち中央地区部会	東京電機大学	山田 あすか 氏
	【休 憩 10 分】	
(4) あだち北西地区部会	東京農業大学	鈴木 誠 氏
(5) TX・竹ノ塚周辺地区部会	東京未来大学	森下 一成 氏
(6) 扇・西新井地区部会	文教大学	森 恭子 氏
<b>3 区長コメント</b>	<b>15：30～</b>	
	【休 憩 10 分】	
<b>4 講評</b>	<b>15：45～</b>	
<b>5 閉会挨拶</b>	<b>16：25～</b>	
	まちづくりフォーラム実行委員会委員長	乾 雅榮

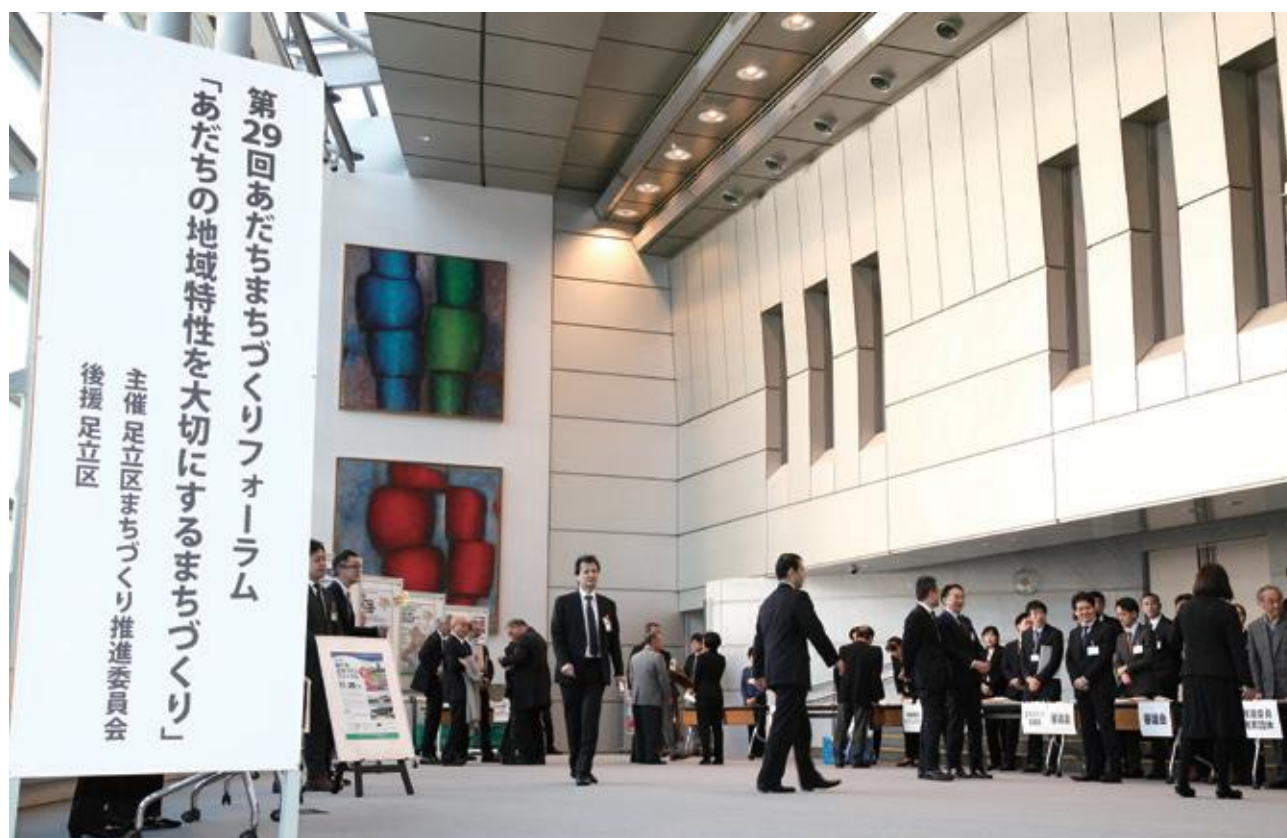
## 2. 参加人数

団体名等	人数(名)
足立区議会議員	6
推進委員会推薦団体(町自連・町会等)	11
推進委員会推薦団体(その他)	0
推進委員会退会者	1
まちづくり関係の審議会(景観等)	4
まちづくり連絡会・協議会等	15
一般	29
大学関係(学生等)	9
区職員(事務局除く)	63
コメンテーター(講評)	5
推進委員・カウンセラー	52
計	195

参加者 195名

事務局 5名

合計 200名



### 3. コメンテーター プロフィール紹介



**鈴木 誠** 氏

東京農業大学 地域環境科学部造園科学科教授

専門分野：環境計画、設計分野、庭園デザイン・歴史まちづくりの研究  
足立区景観審議会委員、緑の基本計画改定審議会会長



**松尾 一郎** 氏

東京大学大学院 情報学環総合防災情報研究センター客員教授

専門分野：防災行動計画、コミュニティ防災、足立区総合防災行政アドバイザー  
NPO法人環境防災総合政策研究機構（CeMI）環境・防災研究所副所長



**山田 あすか** 氏

東京電機大学 未来科学部建築学科教授

専門分野：建築計画、都市計画、医療・福祉・教育施設  
足立区ユニバーサルデザイン推進会議・副会長



**森下 一成** 氏

東京未来大学 モチベーション行動科学部教授

専門分野：都市・地域計画、地域マネジメント、社会空間システム  
足立区との「東京未来大学連携プロジェクト」で新商品開発（みらいおこし等）



**森 恭子** 氏

文教大学 人間科学部人間科学科教授

専門分野：社会福祉学、国際社会福祉、地域福祉、ソーシャルワーク  
越谷市社会福祉審議会・地域福祉専門分科会会長

※プロフィールは、令和元年11月30日現在のものです。

## 4. 主催者挨拶



まちづくり推進委員会 委員長  
白井 浄きよし

本日は、大変お忙しい中、第29回あだちまちづくりフォーラムに、近藤足立区長様、羽住町会・自治会連合会会長様、コメンテーターの先生方にご出席いただきましてありがとうございます。

また、皆様には足立区のまちづくりの推進に多大なるご尽力をいただき、誠にありがとうございます。

まちづくり推進委員会は、足立区ユニバーサルデザインのみちづくり条例に基づいた組織でございます。地域の代表として、まちづくりを円滑にする推進委員と、専門的な立場から助言などを行うカウンセラーとで構成され、現在63名で活動しております。

主な活動のひとつは、このまちづくりフォーラムです。推進委員とカウンセラーが、平成29年度から3年間の活動をまとめ、本日発表する研究成果は、地域を愛する生活者の視点での提案です。

それは「実現が難しいのでは」と感じられる発表もあるかもしれませんが、足立区と連携する大学の専門分野の先生方から、奇譚のないご意見をいただければ幸いです。さらに完成度を高めた研究成果を、さまざま提案に結びつけていきたいと思っております。

今回のフォーラムのテーマは、「あだちの地域特性を大切にすまちづくり」であります。足立区内を6つに分けた地区部会ごとに発表する内容は、景観を活かしたまちづくり、安全安心や防災を中心にしたもの、大学との連携、町会自治会ごとに考えた構想というように、区内を6地区に分けただけでも、さまざまな課題の切り口が、浮かび上がってまいりました。

どの発表も、まちづくりには欠かせない視点であります。先般発生しました台風15号、19号により、安全安心なまちづくりという点で、改めて考えさせられることとなりました。

今回の台風は、足立区内の河川、特に荒川が越水するのではないかと緊張が高まる瞬間もありました。もちろん堤防整備等の準備は必要ですが、生命、財産を守るためには、行動が大切になります。

毎年のように発生する自然災害によるまちの被害を目の当たりにすると、まさに災害に強いまちづくりは、我々が常に真剣に向き合っていかなければならない重要な課題であると思っております。

防災に限らず、まちづくりには、ハードとソフトのバランスが必要です。そして、バランスの取れた総合的なまちづくりを進めていくためには、区民と行政が共に創りあげていく協創によるまちづくりの理念が不可欠となります。そのために、地域の代表としてのまちづくり推進委員、あるいはまちづくりカウンセラーに任命されている私どもが区民と行政の橋渡しをしていかなければならないと意識しております。

本日、ご参加いただきました皆様におかれましては、このまちづくりフォーラムが、それぞれの地域のまちづくりについて改めてお考えいただくきっかけとなることを切にお願い申し上げまして、私のご挨拶とさせていただきます。本日は、大変ありがとうございます。

## 5. 来賓挨拶



足立区長  
近藤 やよい

本日は、このように大勢の皆様にご出席いただきまして、まちづくりフォーラムが開催できますことを、私ども足立区でも大変にありがたく心強く思っております。

今、白井委員長からも「まちづくりというのは、ハードとソフトのコンビネーションが非常に重要だ」というお話がございました。私も日々、実感しております。

足立区のイメージが、北千住を中心に変わってきたということは、皆様もお感じのことかと思えます。全ての始まりは東口に東京電機大学が開学したこと、これがきっかけになったかなと思えます。

大学の誘致は、99%無理であるということと言われた時期もございました。なぜなら、東京電機大学の誘致場所となったURの土地や日本たばこの土地は、ほぼ、あの時点で、マンション開発が決まっていました。東京都からも、そうした形のまちづくりで、ご許可をいただいていた。あの段階で、大学誘致で計画をひっくり返すことは、未だかつてなかったことだと言われておりましたが、まちの皆様のご熱意もありまして、結果的に大学誘致ということになりました。

今思いますと、単に大学が来たから良かったということではなく、そこに若者が集まり、若者を中心に、まちが変わってきたということが今に繋がっております。

先ほど「今日の提案の中には、不可能と思われることがあるかもしれない」と白井委員長はおっしゃって

おられましたが、不可能を前提にするのではなく、まちのため、足立区の将来のため、何が重要なのか、何が重要なのかという視点で皆様と今日一日、足立区の将来を考えていけたらと思っております。

足立区、良くなってきたと言いながら、23区で高齢化率が一番ということもございますので、この高齢者が住み続けられるまちという視点は、これからのまちづくりで、どうしても欠くことができません。

また、大変ありがたいこととございますが、子育て世代を中心とした若い方が、足立区にマンションや土地を買って入ってきていただいている。若い方の人口も増えていきますので、高齢者が住み続けられるまちであると同時に、子育てがしやすいまち、という事にも私たちは力点を置いていかなければなりません。

得られた財源、限られた職員を、どのように優先順位を決めて配置していくかということも、私たち行政だけの視点ではなく、生活者の視点を重要視して、皆様にご意見、ご要望をいただきながら進めて参りたいと思います。

私は、今日、一区民として、6地区の皆様方のご提案を楽しみに聞かせていただきたいと思います。定期的な会合だけでなく、カウンセラーの方、そして推進委員の方が、ご自身の時間を削って、まちを歩きながらのご提案ということも聞いております。心から感謝を申し上げて、今日のまちづくりのフォーラム、開催のご成功を心から期待するものでございます。ありがとうございました。





足立区町会・自治会連合会会長  
羽住 たかし 奎

ただいまご紹介をいただきました、足立区町会・自治会連合会会長の羽住でございます。今日は、第29回まちづくりフォーラムにお招きいただきまして、まことにありがとうございます。

町会・自治会連合会を代表して、一言ご挨拶申し上げます。町会・自治会連合会は、各町会、自治会の自主性を尊重し、その健全なる発展と町会、自治会相互の連絡協調を図ることにより、区民の福祉増進に寄与することを目的とした団体でございます。

私どもの会の仲間が主に参加させていただいている、まちづくり推進委員とまちづくりカウンセラーの皆様が協力して、このような盛大なフォーラムを開催できることは、素晴らしいことだと感じております。

区内、6つの各地区の皆様が、それぞれの地域の課題を調査研究した結果、成果を発表されるとうかがい、素晴らしい提案がされることを期待しております。

先ほどの白井委員長さんのお話にあったように、まちづくりには、ハードとソフトのバランスが必要です。そして、バランスが取れたまちづくりを区民と行政がともに創り上げていく、まさに協創による理念が欠かせません。長年町会の活動に従事したものと、心から強く実感した次第であります。地域の代表として、まちづくり推進委員が行政の橋渡しとして期待されているものは大きいと感じております。

最後に限られた時間ではございますが、本日も参

加いただいた皆様におかれましては、このまちづくりフォーラムが、それぞれの地域のまちづくりについて、改めてお考えいただく契機となることを切にお願い申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

## 6. 調査研究発表内容とコメント紹介

### 千住地区部会

「千住地域の特性に合わせたまちづくり」

1. 千住の景観について
2. 水害・災害について
3. 千住地区の活性化について

(推進委員)

中屋 房一	杉山 満
岡野 伸一郎	吉田 祐一
間嶋 昭人	大木 一郎

(カウンセラー)

川邊 凱久
村田 雅利
飯尾 憲彌



千住地区部会においては、平成29年度から令和元年度の3年間においてテーマに添ってまち歩きを行い、現地を調査、確認し都市計画マスタープラン提言内容をもとに研究し、地域の課題についての情報を共有し、区に研究結果を提案しました。千住は、かつて江戸四宿の一つで、川柳に「千住品川むらさきのたもとなり」と詠まれるほどの町でした。旧日光街道に残された旧家旧跡、神社仏閣・銭湯・足立市場・四本煙突等の名所を継承しながら、下町らしい情緒ある「路地（露地）文化」そこに残る人情など、先人が残してきた目に見えないものを、都市開発における整備のなかでも次世代に伝えていける環境づくりを今後も目指していきたいと思えます。

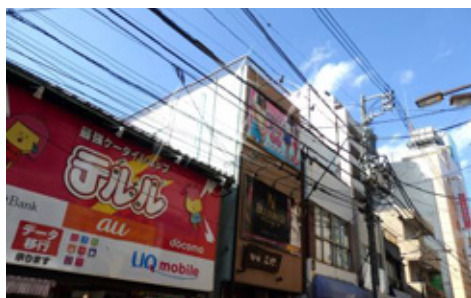
#### 1. 千住の景観について

##### ①主要道路の無電柱化の促進

\*現在、墨堤通りの一部が完成し工事は継続中です。街路樹について第六建設事務所と地域（関連町会）が相談し、これまでの街路樹であるイチョウを街路樹向きの桜にした経緯があります。今後予定されている所でも地域とのコミュニケーションが必要と思えます。



墨堤通りの無電柱化（桜開花時） 桜木1丁目付近



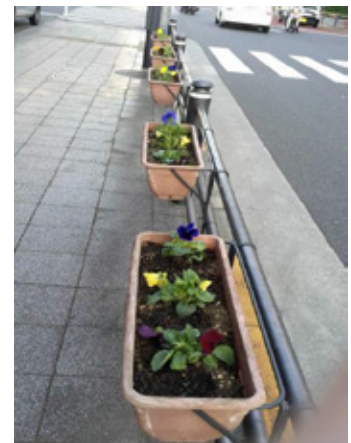
\*宿場通り商店街等で見かける配線が重なりまるで鳥の巣のような状態が多く見られる。今後、整備の取組が必要と思われる。

## ②公園、歩道等において「ビューティフル・ウィンドウズ運動」活動の呼びかけ

\* 公園の樹木といえは低木のツツジ等が多くゴミのポイ捨てがしやすい環境である。そこで、地元小中学校・地域の連携事業で公園の緑地を花壇にする事で環境がよくなると思われる。区の助成制度新設の検討を望む。



春のチューリップ開花時



秋の開花時

\* 上記は、千住桜木町公園にて小中連携事業で地域の方達と花壇づくりを行っている。

\* 他区で見られる、通学路にプランターの設置事例↑  
\* トラスト制度を活用する事も良いかも

## ③違反広告物除去協力員の増員、区・地域の協力で違反広告物を一掃する 違反広告物を除去できる範囲を広げ景観を守る提案

\* 現状は、区での違反広告物除去協力員は、2年ごとに委嘱され活動をしている。

\* 広告物の撤去は、電柱等へ貼ってある物のみで、コーン等に設置した物に対しては協力員では対応できず、区に連絡し区の職員の対応となっている。

\* 建売住宅の販売時が特に多い。土日には、通りから現地までの間80~90枚の掲示がある。撤去後も土日には、新規に掲示され完売するまで続く。



違反広告物除去協力員で撤去できる範囲（電柱への広告）



違反広告物除去協力員では撤去できない範囲（コーン、立て看板での広告）

#### ④千住地域の桜並木を守る(老木の対策)

\*千住地区の桜並木を観光協会、区の関係紙等での啓発を望む。

\*40~50年経過した老木が多くあり、樹木医等で調査し植え替えを予定されているようだが、伐採し根が抜けるようになるには5年以上かかるため進捗が今一つのような。今後も是非、巡回確認を続けて頂きたい。



千住元町



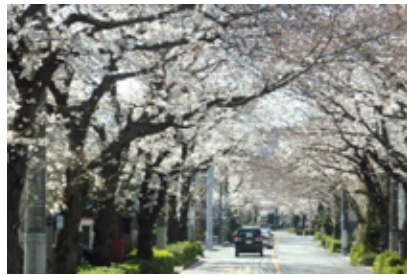
千住桜木



常東小学校



柳原千草園



千住大踏切通り、柳原地区桜並木



老木対策



### 1. 千住の景観について まとめ

- ①主要道路の無電柱化の促進
- ②公園・歩道「ビューティフル・ウィンドウズ運動/パートナー」活動、参加への声かけ
- ③違反広告物除去協力員の増員、区・地域で協力で違反広告物を一掃する
- ④千住地域の桜並木を守る(老木対策)

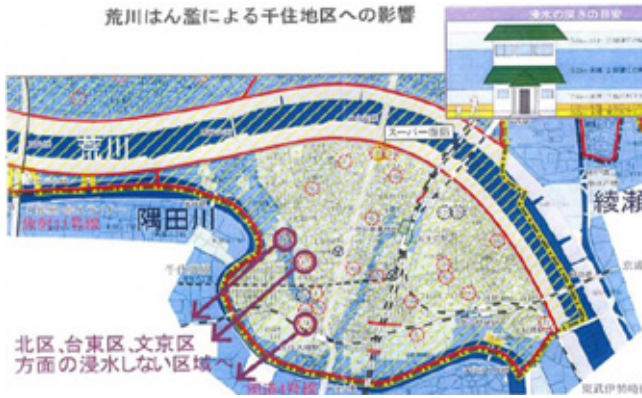
## 2. 水害・災害について

### ①荒川、隅田川のはん濫について再確認

\*「足立区洪水ハザードマップ(H,31.3月発行)」について、町連単位・避難所運営訓練時に説明会等を実施し常に啓発する必要がある。

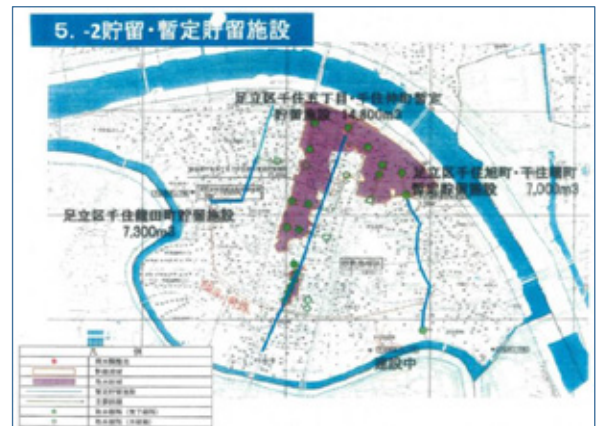
\*江東5区広域避難推進シンポジウムの発表でもあったように、「広域避難勧告発令」の際、江東5区以外の避難場所・避難先の確保とあるが、一人暮らしの老人等を含め、対応をもう少し具体的に伝達することが必要である。【5区以外に知り合いがいない方の対応?/浸水しない地区との連携体制は?/区内の公共施設及び高層マンション等の受入体制は?】

明日にでも起こりえる水害・災害について区としての対応を再検討が必要。



\*千住地区内の雨水貯留施設について  
右記3ヶ所は完成している。→

- ・千住龍田町：7,300m<sup>3</sup>
- ・千住5丁目・千住仲町：14,800m<sup>3</sup>
- ・千住旭町・千住曙町：7,000m<sup>3</sup>



←上記3ヶ所をつなぐ  
隅田川幹線シールドトンネル貯留施設  
(工事中 完成予定：令和2年度)

## ②災害に備えて

- \* 防災用井戸の設置及び水害時の土のう配布についての提案
- \* 公共建築物、一定規模の建築物に**防災用井戸**の設置を**努力義務化**とする。(助成制度新設)



\* **土のうの配布**は、高齢者等の一人暮らし、車等がなく取りに行けない人への対応として、地域ごとに**設置場所**を設ける。

## 2. 水害・災害について まとめ

- ①足立区洪水ハザードマップの啓発
- ②避難場所・避難先の具体的な**伝達方法**
- ③浸水しない地区との**連携体制**
- ④**災害用井戸**の設置努力義務化
- ⑤**土のうの配布場所**の増設

### 3. 千住地区の活性化について

#### ①名所・旧跡の継承

\*千住地区には、たくさん名所・旧跡があり、それぞれの商店街、団体においてマップを作成し一生懸命に活動はされているのが見えるが、千住への来場者の取り合いの様にも！そこで千住地区の全体が分かるシステム等を区でまとめる事はできないものか。



各マップ



四本煙突



勝専寺(赤門寺)



千住神社



千住寿町 大黒湯



千住宿本陣跡



葛飾北斎 富嶽三十六景



横山家

#### ②隅田川スーパー堤防の活用 (商業施設等の提案)

- \*現在、千住桜木1丁目、2丁目(帝京科学大学及び桜木1丁目都営住宅の隣接部分)及び千住大橋駅周辺地区隣接部分一部が完成している。(カミソリ堤防の耐震工事も進捗中)
- \*現在の利用としては年配者や犬の散歩及び鯉の釣り等が見られる。又、夏場の夕涼みがてらの散歩時には外灯があれば良いとの声がある。
- \*防災対策として、災害時の物資運搬に陸路が難しい場合に隅田川を利用する対応も考慮してあるが、今後スーパー堤防の計画時(千住橋戸町、千住大橋防災船着場予定)には、同じ様に物資運搬路を確保されたい。
- \*釣り堀、水上スキー施設、隅田川水上遊覧バスなど商業施設づくりを提案する。



物資運搬スロープ

③下町人情、ぶらり旅 \*旧水戸佐倉道石碑から足立市場、千住大橋までのまち歩き

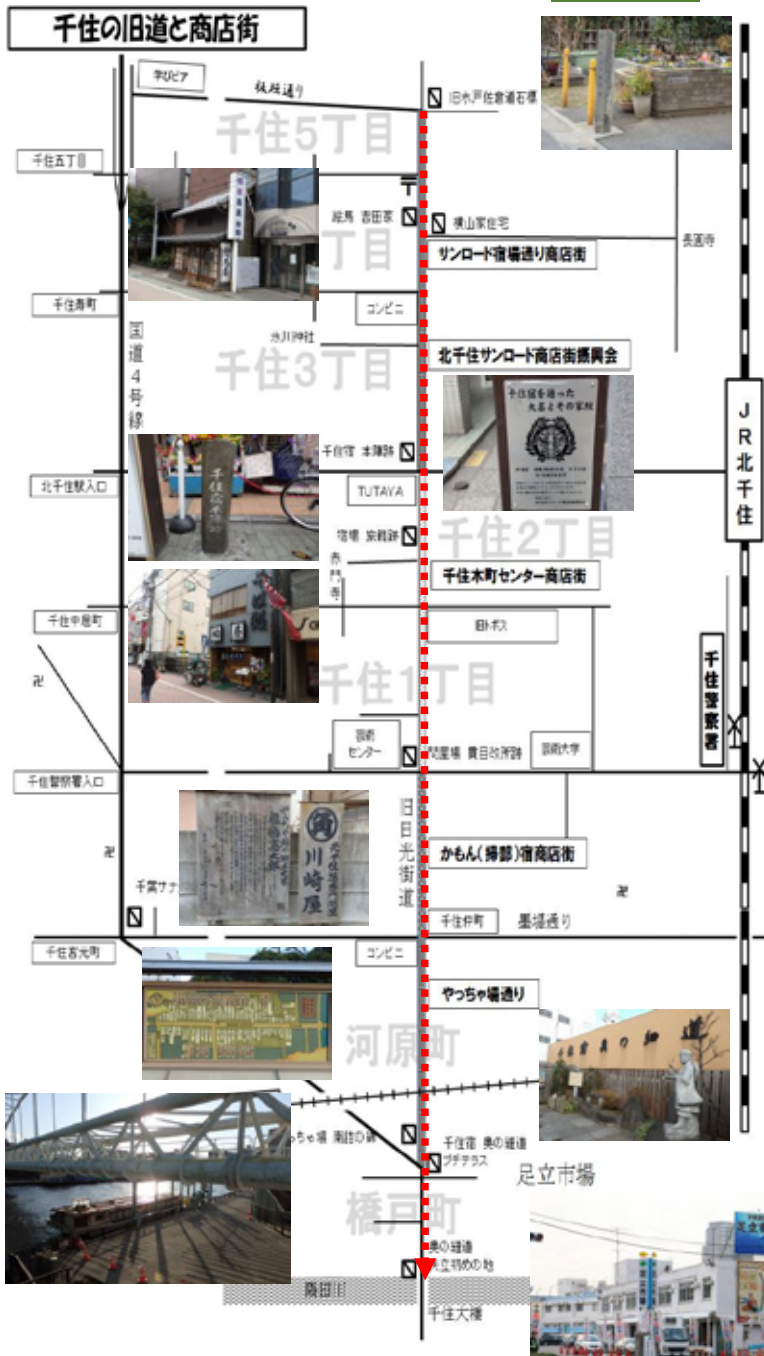


千住宿

千住品川  
むらさきのたもとなり



千住宿模型 北千住駅丸井10階



3. 千住地区の活性化について まとめ

- ①名所・旧跡を継承する
- ②隅田川スーパー堤防の商業利用
- ③旧日光街道をまち歩きコースに

【千住地区 活性化の課題】

- \*アートシャッター  
今後の進展・PR方法…  
ファンド制度の利用
- \*北千住駅東口 河川と鉄道に囲まれ交通の不便さ
- \*北千住駅周辺の公衆トイレが極端に少ない…
- \*宿泊場所が(施設)が足りない…



# 千住地区部会研究発表について

## 千住の景観をいかしたまちづくり

千住の景観、活性化について、まずは電線の地中化、これはハードとして是非実現していただきたい。実現すれば、さらにより景観のまちが生まれるなと思います。その後のご提案、ビューティフルパートナー、違反広告物、桜の老樹の件、これらのことは、すでに気づいて活動されている地域の方の輪を広げて、情報交換していくといいのではないかと思います。すでに行動に移している方がいる、お互いの活動を知り合うことで、さらなるプラスを生み出していく、そんな千住地区であってほしいと思います。

また、千住には大きな財産、荒川と旧荒川である隅田川、緑と水の自然があります。今、世界中で都市の川の水辺の見直しが起きています。パリやニューヨーク、ワシントン、今後、東京でもこの動きが広がっていくと思いますので、千住地区の水辺のあり方、是非、皆さんで考えていけたらと思います。川に恵まれている足立区ですので、千住地区でもご協力願いたいと思います。



**鈴木 誠**

東京農業大学  
地域環境科学部造園科学科教授

## 防災というまちづくり

まちづくりというのは防災です。ご提案のあった違法広告物、あるいは老木対策、そして無電柱化などの景観対策は、防災の面でもとても重要です。台風15号、17号などの風台風では、看板が飛んできたり、倒木の危険もありました。特に無電柱化は、風対策を考えると重要な施策だと思っています。

今回、千葉県で、唯一停電しなかった地域は、無電柱化していた美浜区。その意味でも重要な所を無電柱化していくのは、とても良い提案だと思っています。水害対策、台風19号の対応をされて、ハザードマップの重要性をご理解いただけたと思います。

足立区のハザードマップは、荒川のみならず、中川、江戸川、利根川、綾瀬川、それぞれの川が氾濫したらどうなるかということがわかります。まさにご提案にあった通り、日頃から使えるようにしておく必要があります。

最後に、上流にある調節池、区の中の貯留池などが、台風の時、どう活躍したかなどを、行政が区民に伝えていくことが重要だと感じています。



**松尾 一郎**

東京大学大学院  
情報学環総合防災情報研究センター客員教授  
足立区総合防災行政アドバイザー



# 東部地区部会

1. 綾瀬地区開発について
2. 北綾瀬駅周辺のまちづくりについて
3. 地下鉄8号線について
4. 中川の防災について

(推進委員)

上野 剛      北村 敦子  
篠崎 廣志    白井 淨  
林 千尋      横溝 正雄

(カウンセラー)

池田 秀平  
小川 勉  
田中 光義  
沼田 文子  
吉田 錦次



みんなで参加する  
地区開発、交通網  
及び河川防災設備で、  
安心・安全の構築。



## 1. 綾瀬地区開発について

綾瀬小学校、東綾瀬中学校の校舎建替えに伴う、綾瀬保育園、東綾瀬区民事務所、家庭支援センター、交通公園、綾瀬住区センター学童さくらの跡地をどのように活用するかは、長い工事期間後の活用をどうやって行うかも含め重要な問題であると考えます。

また、現在綾瀬地区にはホテルが新たに二棟開業し、今後ますます綾瀬地区の都心への利便性需要が高まり、公共交通との充実と共栄を模索することが望まれます。

「にぎわいのあるまちづくり」として商店街の活性化を進めつつ、都立公園、都立武道館等との融和のあるまちづくりをしていくことが必要かと考えます。交通公園等の跡地を綾瀬地区発展の誘導につなげることが望まれ、さらに大型台風に対する綾瀬川の防災対策促進を発信して、安心安全なまちづくりを展開していくことが重要だと考えます。



交通公園等跡地



綾瀬駅東口駅前

## 2. 北綾瀬駅周辺のまちづくりについて

北綾瀬駅の改良工事（2020年完了予定）、しょうぶ沼公園改修工事、道路拡幅改良工事が現在進められており、地下鉄千代田線が北綾瀬始発の駅になり、平成31年3月16日より始発の約半分が10両編成で運行することとなりました。利便性の向上により、駅を利用する頻度は大きく高まり、今後のさらなる乗降客数の増加が見込まれます。

駅近くの道路、歩道の整備、タクシー、一般車乗降場の整備、バス停を駅近くに誘致することが検討されています。

地元では北綾瀬駅周辺まちづくり協議会が開催されており、今後も地域住民の意見をふまえ、北綾瀬駅の利用者増加に対応する交通ネットワークの整備推進、商業施設等の誘導による賑わいの促進、駅前照明装置設置による防犯、利便性の促進、しょうぶ沼公園を拠点とする緑化の推進が望まれます。



北綾瀬駅



北綾瀬駅、しょうぶ沼公園

### 3. 地下鉄8号線について

地下鉄8号線の延伸については、平成28年4月に交通政策審議会答申に位置付けられましたが、その後の進展が見受けられません。

地元の「佐野町会・自治会連絡協議会」は、平成30年7月24日及び本年7月29日にも「公益信託あだちまちづくりトラスト」に対し、区内延伸PR活動および地元機運の醸成・拡大を図るべく、のぼり旗・横断幕の作成費用の助成を頂くために、プレゼンテーションを行い助成を受け作成し、地下鉄が通ると思われる葛西用水及びその周辺に設置しているところです。

さらに今年は、4月7日に「葛西用水さくら通り流し踊り」と称して、PR活動を行いました。また毎年11月には、足立区中川小学校体育館に於いて、機運を盛り上げるために整備促進大会を開催し、区内及び延伸すると思われる自治体の方々の参加を頂いております。地下鉄8号線の促進を望みます。



地下鉄8号線 のぼり旗



地下鉄8号線 横断幕

### 4. 中川の防災について

中川の防災について、「第18地区町会自治会連絡協議会」（以下18町自連とする）は、「安全・安心・住みやすいまちづくり」の為に活動を行っている。

第19号大型台風の上陸の前、10月10日に18町自連水害対策委員会による台風対策会議が実施され、情報の共有化と今後の対応について確認され、各町会・自治会はその結果を持ち帰り、災害タイムラインに沿って準備を開始しました。

当自治会では、10日役員会議で対応策を検討、11日に対策本部を設置し、「台風19号への警戒・対応について」を自治会700世帯に組長を通して、緊急配布し注意喚起を行うとともに、高齢者・要支援者に対し避難先と12日正午避難所への送迎を呼びかけ、12日正午に8名を中川区民事務所3階に避難させました。

その後13時に、北三谷小学校に避難所15時開設の通知が入り、関係役員での避難所開設準備と運営にあたりました。16時以降、当避難所には高齢者・子供を含めた避難者が続々と訪れ、最終避難者は317人でした。今回、今までの水害対策委員会による何度もの勉強会を行ったことが現実となり、実践に繋がりました。

台風19号は、関東・東北地区に大被害を与えました。20日の近隣町会との合同避難所訓練では、今回の経験から昨年に比べ多くの住民が参加されました。これからも起こりうる台風・大雨に備え、個人個人が生き延びるための警戒、自助・共助・公助の連携の大切さが強く心に残った体験とのことでした。

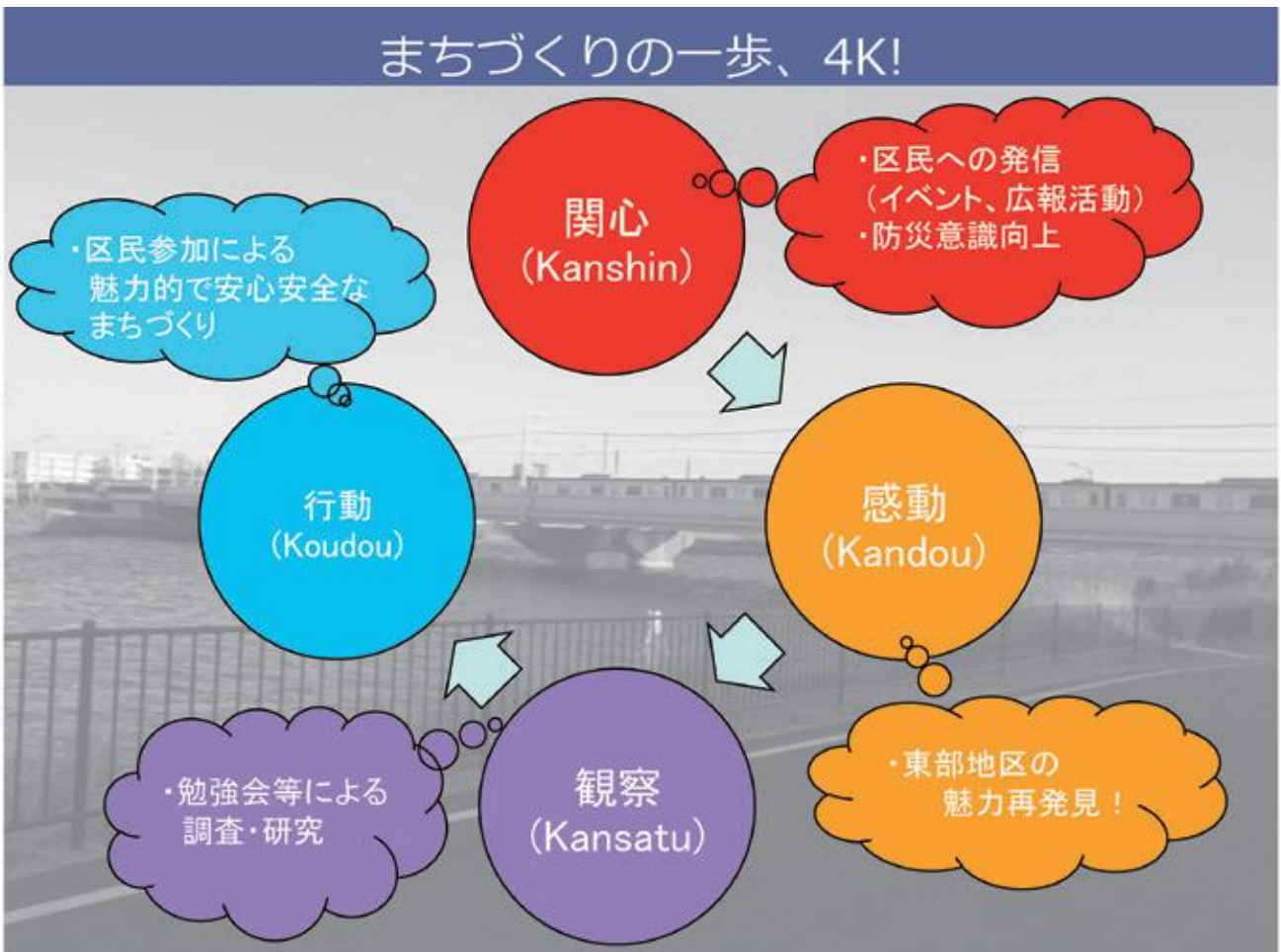
今回の体験を検証・分析し、自治会として更なる備えに活かしていただき、防災対策の推進が望まれます。



中川遠景



地域防災マップ等



# 東部地区部会研究発表について

## 人任せだけでなく、自助、公助、共助の連携

私の専門は、ご紹介いただきましたように医療と福祉です。本日のご発表、開発やハードについてのお話が多かったと思うのですが、まず関心を持つこと、地に足のついた意見を持って人々と意見を交換していく、考え方を交換することで人のネットワークができていく、一人で担うのではなく、みんなで担っていこうという関係が作られていくことが素晴らしいと思います。

次に行動ですけれども、要望を伝えていく、自分たちで相談する、きちんと伝える、自分たちでまちを育てていくという発想も、皆様が、自らその担い手となり実行されようとしている点が非常に素晴らしいと思います。

また、人任せだけではなく、自助と公助と共助の連携を図っていくというお話がございました。まちは、人々が集まっている暮らしの場。皆で集まって暮らすからこそその問題もあります。それが強みになっていくことを強く発信されています。大変素晴らしいご発表だったと思います。



**山田あすか**

東京電機大学  
未来科学部建築学科教授

## 中川地区の水害対策

中川地区には第十八地区町自連のコミュニティタイムラインがあります。例えば、台風19号が足立区に向かっている、3日前にできること、2日前にできること、買い出しに行くとするれば2日前、前日、風や雨が強くなる時はもう外に出ない。そのために早めに避難する、これがタイムラインです。

自治会、町内会が、主体的に考えて動く、これを中川地区では3年前から行なっています。今年の台風19号の時は、中川版のタイムラインを使い住民の方々は、自発的に動きました。

台風19号のようなことが今後起こるとした時、行政がすべて対応するのはなかなか難しい。そういう意味では、まちづくり、地域づくり、そこに住む区民の皆さんが行政と一緒にあって、避難所の運営をしたりすることが必要だと思います。そういうことも、中川地区は、取り組みの中で進めています。このような取り組みを、私はどんどん広げていきたい。それが、結果、足立区に住めば安心安全ということにつながると私は信じています。



**松尾 一郎**

東京大学大学院  
情報学環総合防災情報研究センター客員教授  
足立区総合防災行政アドバイザー

# あだち中央地区部会

「次世代へ、またその先へ、  
今の想いを繋ぐまちづくり」

(推進委員)

青木 慎治  
鈴木 圭子  
高田 一雄  
鳥之海 貴芳

上野 須美代  
川俣 毅  
戸田 美代  
米重 哲彦

(カウンセラー)

川島 俊一  
小宮 和子  
二瓶 義治  
吉澤 正幸



## あだち中央地区の概要

### 【位置】

北は環状七号線（ただしその北側の島根は含む）、南は荒川、西は栗原、西新井、本木に接し、東は綾瀬川に囲まれた（中央本町、青井、弘道、西綾瀬、足立、梅田、関原、梅島、島根）足立区中央の地区

### 【地域の資産】

行政拠点の足立区本庁舎が中央に位置し、残しておきたい路地の風景、寺社・史跡がある

### 【地区の特性】

#### ☆東武スカイツリーライン南西地区

◇“ほぼ全てが木造住宅密集地域” ⇒ 道路や公園が不足し、防災や住環境に課題

#### ☆東武スカイツリーライン北東地区

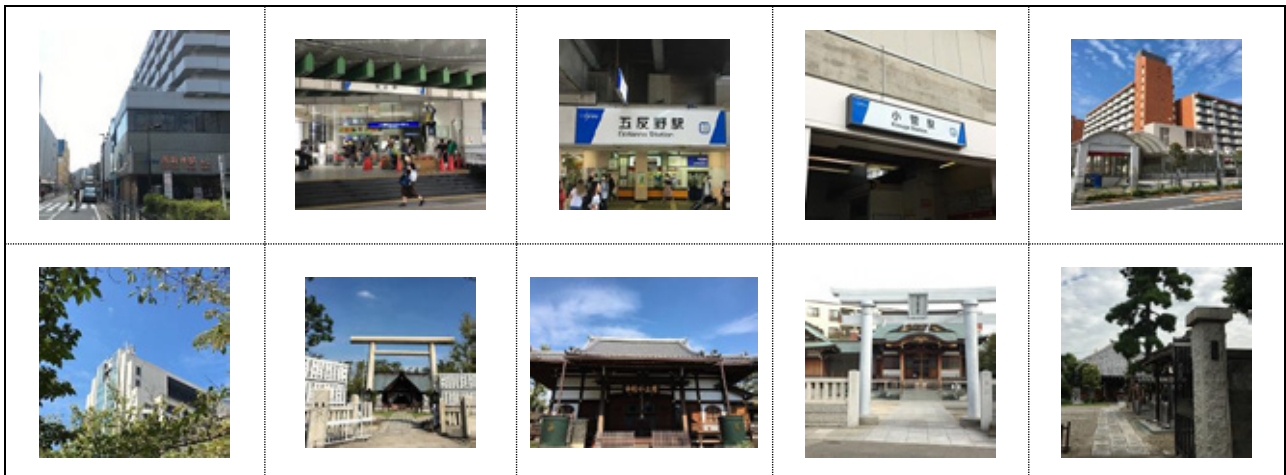
◇“70%が都市基盤の未整備地区”（木造住宅密集地域・区画整理整備済み地区混在）≪都営住宅が多い≫  
⇒ 主要生活道路や細街路の整備が課題

#### ☆鉄道主要駅周辺

◇西新井駅東口 ⇒ 交通広場がなく交通処理機能に課題

◇梅島駅 ⇒ 旧日光街道（主要生活道路）は路線バスが通り自動車・自転車・歩行者が集中しており、駅前広場がないことから駅周辺利用者の交通安全の確保が課題


◇五反野駅 ⇒ 平成30年度に交通広場が設置されバスやタクシーなどの交通は改善されるも、通過車両と歩行者が混在し歩行者の安全性が課題



# 平成29年度からの三カ年の活動

テーマ

ねらい

 <p>梅島駅前旧日光街道沿道 まちづくり提案 安全安心そして活性化へ</p>	<p><b>ねらい</b></p> <p>地域コミュニティの核である 梅島駅前通り商店街（旧日光街道） ⇒ バリアフリーからユニバーサルデザイン化 ⇒ 安全安心と活性化</p>
--	--

## 【現状と課題】

現状把握のために数回の街歩きとともに、駅の乗降客数、地区計画等の調査を行なった。

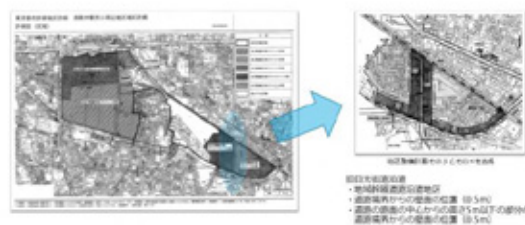
### 現状と課題

**現状と課題**

- A 交通結節点としての梅島駅前  
梅島駅（乗降33千人/日）、都バス王49、はるかぜ4号線  
⇒ 重要な移動手段
- B 旧日光街道の過渡車両が多い  
⇒ 歩道巾拡幅困難
- C 商店街訪問・通勤通学  
⇒ 歩道巾2.5m内外、自転車と人の混在 ⇒ 危険
- D 地区計画…壁面0.5m（高さ5m以下）セットバック
- E 補助138、255号線  
⇒ 旧日光街道の迂回可能性

### 西新井駅西口周辺地区地区計画

**西新井駅西口周辺地区地区計画**



西新井駅西口周辺地区地区計画

- ・駅前地区の整備
- ・駅前地区の整備
- ・駅前地区の整備
- ・駅前地区の整備

## 《平成29年度》

三つの提案

【バスレーン化】 【梅島小学校用地を活用】 【梅島駅北側民間用地】



## 《平成30年度》

『商店街の方とヒアリング・街歩き』『調査』



## 《令和元年度》

☆ 1 【提案】の実現可能性について関係自治体及び署官庁との協議を行う。

☆ 2 それを踏まえて梅島駅前通り商店街の方々との意見交換を行う。

# 《平成29年度（2017年度）》


三つの提案【バスレーン化】【梅島小学校用地を活用】【梅島駅北側民間用地】

## 【提案1 バスレーン化 課題の解決提案】

### 提案1 バスレーン化 その1

- A 交通結節点としての機能は維持  
⇒ 歩道巾拡幅でバリアフリー促進 ⇒ ユニバーサルデザイン
- B 旧日光街道の通過車両が多い  
⇒ バスレーン化で通過車両を迂回させる ⇒ 歩道巾拡幅
- C 商店街訪問・通勤通学  
⇒ 歩道巾5m内外、自転車と人の混在工夫 ⇒ 危険減少
- D 地区計画…壁面0.5m(高さ5m以下)セットバック  
⇒ バスレーン化と併せて歩道巾拡幅(5m内外)  
⇒ “通りのゆとりと賑わいづくり” ⇒ 商店街と足立区の協創
- E 補助138、255号線の旧日光街道の迂回路  
⇒ バスレーン化  
⇒ 車両進入は「地域住民」と「店舗般出入」、「緊急車両」  
⇒ 一般車両進入禁止対策は商店街、地域住民、足立区、警察と協創

※バスの相互通行  
バス停「エルソフィア前」(南端) ⇄ バス停「梅島駅前」(北側)



梅島駅前

エルソフィア前

2018023 まちづくり推進委員会 あだち中央地区部会 6

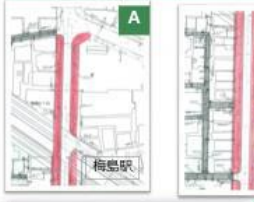
## 【提案1 バスレーン化 計画面】

旧日光街道の構造は現在、道路巾13m、車道2車線、歩道2.5m内外。その南北約260mを、地区計画による壁面0.5mセットバックと併せて道路有効巾14m、車道巾4m、歩道巾5m内外の構造とし、バス相互通行一車線（巾4m）のバスレーン（専用道路）とする。


一般車両は進入禁止とし迂回させる。バス停は専用道路外の南北にある既存をそのままとする。通行できる車両は、「地域住民」「店舗の搬出入車」「緊急車両」とする。店舗への般出入のため適宜停車スペースを設ける。自転車は通行可。

諸対策として「商店街街路灯移設」「電柱地中化」は併せて推進することでよりユニバーサル化された環境が整備される。

### 提案1 バスレーン化 その2



バスレーン断面  
バスレーン4m  
とセットバック  
0.5m  
⇒ 歩道巾5m内外



バスレーン全体イメージ

バスレーン進行車両  
都バス 主49 相互通行  
地元居住者  
店舗般出入

諸対策

- 1 商店街街路灯移設
- 2 電柱地中化
- 3 搬出入車両停車スペースは適宜設置する

旧日光街道の迂回可能性  
補助135及び255号線  
を迂回路とする  
旧日光街道のバスレーン化

迂回路

2018023 まちづくり推進委員会 あだち中央地区部会 6



## 【提案2 梅島小学校用地を活用】

旧日光街道東側沿道の一部建設用地において、学校用地 0.5 mの有効活用

**提案2  
梅島小学校用地を活用**



梅島駅  
梅島小



梅島小  
現況

**旧日光街道東側一部の敷地  
(黄色部分)**

セットバック0.5m分の  
梅島小学校用地を活用



20160323 まちづくり推進委員会 あだち中央地区部会 7

＜参考＞成田市が成田山表参道整備事業で店舗前面の巾2mを歩道化したセットバック事業

店舗前面の巾2mを歩道整備し歩行者空間を創り出している

(成田市ホームページより)



## 【提案3 梅島駅北側民間用地】

交通結節点としての様々な移動手段のハード面に有効な施設として足立区と民間とで実現できるよう協創する。⇒ 例として、公共の駐車・駐輪所としての活用

**提案3  
梅島駅北側民間用地**



梅島駅



**梅島駅北側民間用地  
(薄緑色部分)**

公共の駐車・駐輪場としての活用

地区計画区域外



20160323 まちづくり推進委員会 あだち中央地区部会 8

# 《平成30年度（2018年度）》

## 『商店街の方とヒアリング・街歩き、そして調査』

二年目は、一年目の三つの提案と平行して、商店街の方のご要望を聞き取り、街歩き、そして調査を実施した。課題解決の期間や費用見込みより、すぐ出来そうなものは「短期課題」、その他を「中長期課題」として整理した。

### A 商店街の方の要望

10月・12月に2回実施

『歩道の自転車が危ない』ので何とかしたい!!

※ 壁面 50cm セットバック (地区計画) はいつ整備できるかわからない

#### 二年目の取組み

【検証：商店街の方のご要望と街歩き】

#### A 商店街の方の要望

商店街の方々より聞き取りした要望

# 『歩道の自転車が危ない』

課題解決の期間、費用見込みより  
すぐ出来そうなもの「短期課題」、その他を「中長期課題」

20190318 まちづくり推進委員会 あたち中央地区部会 2

#### A 商店街の方の要望 具体的なご指摘

1 大雨で道路冠水  
箇所および  
道路雨水排水桝  
冠水

写真：乗用車付近が道路冠水箇所⇒



2 ガードレールの  
改良で歩道有効幅  
拡幅できないか

写真：ガードレール⇒



3 商店街街灯、  
道路照明灯、  
電柱を移設して  
歩道拡幅できないか

写真：商店街街灯、道路照明灯、  
電柱の様子⇒



※ 壁面50cm  
セットバックは  
世代をまたぐ  
時間がかかる

## B 街歩き -1

- 1 自転車利用状況
- イ 通勤用は高架下、駅周辺に存在する有料駐輪場で概ね収納
  - ロ 商店街利用は店付近の歩道に停めて用足し
  - ハ 車の停車が頻繁で通過自転車が歩道通行



## B 街歩き -2

- 2 商店の様子
- イ 商品・看板等を歩道に出して営業
  - ロ 店舗の自転車等を歩車道に駐輪
  - ハ 歩道側へ増築

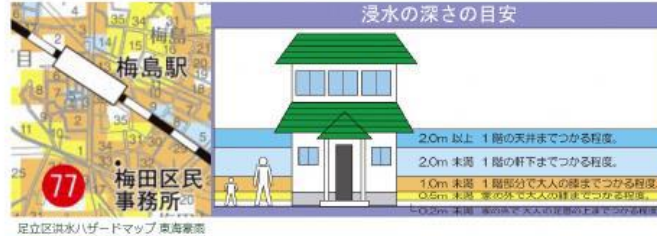


## C 調査

### C 調査

要望A1関連

- イ 今までに経験がない異常気象による道路冠水等にはその備えが大切（土嚢、商品保護等）  
「足立区洪水ハザードマップ 東海豪雨」より



- ロ 道路雨水排水樹冠水 まちづくり課に相談  
⇒昨年7月に一度だけ溢れた。本管が異物で詰まったことが原因。都下水道局が清掃した。その後溢れていない。

20190319 まちづくり推進委員会 あだち中央地区部会 7

## D 提案

### 【提案1】 短期的課題 = 商店街の努力で解決可能

- 1 自転車を車道側に出す。（歩道に自転車を入れない）  
⇒ 自動車の駐停車を禁止し自転車を通りやすいようにする。
- 2 客用自転車置き場をなるべく近場に確保する。  
⇒ 店舗セットバックスペース又は商店街店舗駐輪場共同利用
- 3 店用の自転車は少し離れた所に置いてもらう。（店の前には置かない）  
⇒ 店舗セットバックスペース又は商店街店舗駐輪場共同利用
- 4 50cmのセットバックを無視して増築している店舗には引っ込めてもらう。
- 5 歩道にはみ出して商品、看板などを出して販売しているところは、はみ出さないようにしてもらう。

20190319 まちづくり推進委員会 あだち中央地区部会 8

### 【提案2】 中期的課題 = 自治体と協議で解決可能性

A 2	ガードレール改良または歩車道緑石改良等で撤去検討 建築物等に商店街灯を付替え、歩道街灯を撤去。
A 3	道路照明灯、交通信号柱及び電柱は協議。 ⇒ 電柱地中化（チャレンジ路線に）

20190319 まちづくり推進委員会 あだち中央地区部会 9

### 【提案3】 道路整備や現実性=長期的課題解決アイデア

#### 【提案3】 長期的課題解決アイデア

#### 【バスレーン化】 【梅島小学校用地活用】 【梅島駅北側民間用地】



20190319 まちづくり推進委員会 あだち中央地区部会 10

## 《令和元年度（2019年度）》

☆1【提案】の実現可能性について関係自治体及び署官庁との協議を行う。

☆2 それを踏まえて梅島駅前通り商店街の方々との意見交換を行う。

☆1 部会より「確認・質問事項」を提示し、7月に区関係部署と協議を行なった。

1	<p><b>【提案1の1】</b></p> <p>通過目的の自転車の車道通行を促すため、車道を駐停車禁止とする。</p> <p>例えば、車道の駐停車禁止と共に、商店街や周辺地域住民の努力で“歩道での自転車通行は手押しのみ”とする。</p>	<p>交通規制を所管する交通管理者（警察）の見解は以下のとおり。（以下、略）</p>
2	<p><b>【提案1の2】</b></p> <p>駐輪スペースが可能な店舗軒下に駐輪設備、例えば商品名サイクルラック等を設置する場合、補助金はありますか。</p>	<p>・店舗利用者のための駐輪場整備についての補助金はありません。（略）</p>
3	<p><b>【提案2のA2】</b></p> <p>歩道有効幅を拡幅するために、現在の丸柱＋チェーン型ガードレールを改修する。例えば、幅が狭いガードレールに改修する。</p>	<p>・改修時期に合わせて整備することになります。</p> <p>現時点での改修時期は、未定ですが中長期的になる見込みです。</p>
4	<p><b>【提案2のA2】</b></p> <p>歩道有効幅を拡幅するために、現在の丸柱＋チェーン型ガードレールを撤去する。</p>	<p>・道路交通法、道路法に拘束され、ガードレールが不可になることはありません。</p>
5	<p><b>【提案2のA3】【提案3】</b></p> <p>商店街街灯の撤去、新設には補助金等がありますか。</p>	<p>・撤去、新設共補助金有 ・区の補助金、都の補助金 ・補助率最大 4/5 ・事前に相談必要</p>
6	<p><b>【提案2のA3】【提案3】</b></p> <p>道路照明灯、交通信号、西側電柱を地中化する。</p>	<p>・改修時期に合わせて整備することになります。</p> <p>現時点での改修時期は、未定ですが中長期的になる見込みです。（略）</p>
7	<p><b>【提案3 バスレーン化 その1、2】</b></p> <p>バスレーン化すること。</p> <p>★1 バスは「エルソフィア前」と「梅島駅前」間で相互通行</p> <p>★2 歩車道の構造は、バスレーンが幅4m、その他は歩道とする。</p>	<p>バスレーン化について 補助255号線及び南北構想線が実現出来た場合、旧道は現在の交通量が減少すると考えられます。</p> <p>ご提案の通り、長期的に検討していく路線であることを区は認識しています。（略）</p>
8	<p><b>【提案3 バスレーン化 その1、2】</b></p> <p>バスレーン化することにより、一般車両（自転車、地域店舗及び住民車両、緊急車両以外）は通行禁止させ迂回路を通行する。</p>	<p>バスレーン 4m単独道路については、道路交通法上交通管理者である警察からの同意が得られない可能性が大了。</p>
9	<p><b>【提案3 梅島小学校用地を活用】</b></p> <p>地区計画で壁面を0.5mセットバックするが、梅島小学校に隣接する土地は0.5mセットバック分梅島小学校用地を活用できるようにする。</p>	<p>梅島小敷地は足立区の財産。50cmセットバックできる条件が整えば梅島小敷地のセットバックは可能です。</p>

☆2 梅島駅前通り商店街の方々と意見交換を行う。

8月30日、商店街にある店舗にて商店街の方と意見交換を行なった。以下が《概要》
1 街路灯の撤去新設共に補助金がある。現在の街路灯を撤去後、建物の壁に街路灯を設置するには構造的なことを検討するのと、建物建替えの時に対応が必要になる ⇒現在の街路灯を撤去すれば歩道幅が広がる部分が出てくる。
2 歩車道の段差を解消出来ないか。 ⇒区の説明によると、現在の区の歩車道は段差を付けず縁石で分離することなので、将来改修時にはその可能性があると思われる。
3 梅島小学校用地を50cmセットバックに興味がある。 ⇒区の説明によると、条件が揃うことと住民の方の要望があれば可能性がある。
4 バスが迂回出来ないか。 ⇒区の説明によると、「バスレーン化について、補助255号線及び南北構想線が実現出来た場合、旧道は現在の交通量が減少すると考えられます。長期的に検討していく路線であることを区は認識しています。」バスの迂回も同様だと思われる。

三カ年計画を終えるにあたって

推進委員 歩道を広げることは時間がかかる事がわかりました。出来る事から対策を施し歩道の安全対策を実現してもらいたい。
推進委員 梅島駅前通り商店街の利用者と地権者の安全安心と活性化をコーディネートするのが、まちづくり推進委員会あだち中央部会の使命との想いで活動してきました。 更に行政関係所管との調整能力が問われた三年間でした。
カウンセラー 梅島駅前商店街沿道の旧日光街道のあり方をどう考えるか、を焦点にしたまちづくりの一つの提案が出来たことはあだち中央部会の見識と情熱の賜物と感銘した。今後、梅島・西新井地区の道路網整備とまちづくりを見守っていきたい。

「次世代へ、またその先へ、  
今の想いを繋ぐまちづくり」

# あだち中央地区部会研究発表について

## 地域の特性を大切にまちづくり

発表の資料の中で、あだち中央地区の特性と課題とあり、特性とはすなわち課題ではないし、もちろん特性とはイコールそのまま魅力でもないという捉え方をされています。また、地域特性について、これらが異なるということを前提に課題を発見し、それを精査し、解決法につなげていくという、その研究のプロセスが素晴らしいと思いました。

歩道を広げたいからスタートし、でも歩道を広げるのはなかなか難しい、では、そもそも「どうして歩道を広げたいのか」というところに立ち返られたのではないかと思います。ハード面、歩道を広げるだけでなく、自転車が停まっていて利用できる部分が少ないからよくないとか、自転車の運行と車、あるいは歩行者との棲み分けがうまくできていないとか、問題は歩道が狭いことではなく、歩いたり移動したりするときに危険があることが問題だとお考えになったと思います。このように原点に戻られたことで、実際と理想のギャップのありかが鮮明になりました。

先ほどもお話に出ましたウォークアブルシティ、歩きやすいことも大事ですし、自転車も、もちろん大事にしたい。緊急車両のこともありますし、車の運行が必要であることは、もちろん否定しません。さまざまな方法で、さまざまなスピードで移動される方たちにとって、共存の空間として、まち、あるいは道というものを考えていかなければいけないということが結論に結びついているのかなと思います。

「すぐには難しいことがわかりました」と、ご発表にありましたが、歩行者と車の共存、歩車共存の言葉は、その理念が生まれ、具体例があり、世界のいろいろなところで実現しています。私たちは歩行者として歩きたいし、自転車のユーザーとしても利用したい、時には公共交通と車でも移動したい、そういった多様な移動者にとって、ここは快適で安全であるということをご共有したい。この概念が、皆さんのさまざまな調査などによって共有される。そしてこの概念が、新しい時代のまちや道を作っていく土台になっていくと思います。



**山田あすか**

東京電機大学  
未来科学部建築学科教授

# あだち北西地区部会

「安全・安心・住みやすい街づくり & 町会自治会」  
 ～花とみどりと水辺のネットワーク構想 & 町会自治会サードプレイス構想～

(推進委員)

浅香 孝子      小池 英夫  
 齋藤 きよみ      野口 正広  
 馬場 重光      福原 稔

(カウンセラー)

黒澤 保幸  
 福田 隆一  
 古家 一郎  
 横村 隆子



## ● 報告概要

### ・ 3年間の活動テーマ：「安全・安心・住みやすい街づくり&町会自治会」

人口構造の高齢化にともなう担い手不足の問題や、少子化による子育て環境の変化等により各地区部会委員から、町会自治会の会員数減少、役員のなり手不足や子供会、PTA 活動の落込みなど、町会自治会活動存続への将来的な不安の声が多くありました。そこで北西地区では、「町会自治会と区民、区の協創による街づくり」をテーマに活動しました。

### ・ 豊かな「自然資源」と「ひと資源」の活用！

あだち北西地区には、公園、農地、神社など花や緑を楽しめる「自然資源」が多くあり、川の手の水辺もあります。

また日暮里舎人ライナーの開通にともない町会自治会の方々の尽力により約10年前から、当地区で活動されている「花の散歩路」は、区と協働で通勤路を四季の花で彩る町会自治会の活動による「ひと資源」があります。



### ・ 「やっばこの街好きだわ」と言える街づくりの提案！

地域特性の水とみどり資源を活用して、「花の散歩路」のネットワーク化と拡充を行い、隣地区に大学病院ができることもあり、健康もキーワードにした「健康散歩したくなる街」は、散歩する楽しみを生みます。人が街に出ることで、視線も増えて街の安全性向上にも貢献できます。

散歩路の途中に、足立区や町会自治会、商店街、子供会などの活動情報発信を行える場所を設け、気軽に立寄れる地域交流拠点のサードプレイス「あだカフェ」を配し、災害時に備えた地域コミュニティを深め信頼関係も育みます。そして「やっばこの街好きだわ」と区民が自慢でき歩きたくなる街は、あだちの観光化への魅力も生み出します。

(第1の場：家庭・第2の場：学校や会社・第3の場：サードプレイス＝普段と違う居心地の良い場所)



# ●3年間の調査研究、活動について

## 2017年/1年目 町会・自治会活動の問題点についての調査・考察



「今の時代に町会と地域が一体になれる活動は何があるのか？」

「気軽に参加して、地域コミュニティを育める事は何か？」

「地域の方々に地元をもっと好きになってもらい町会自治会の地元の貴重な財産を守る活動に参加してもらえるようになるにはどうしたら良いか」

考察を行った結果は、地域特性を活用した景観形成により、町会自治会を中心に区民、商店街、地元企業など地域全体で地元愛を育める活動を行い、北野武さんが区の広報で「やっぱ、この街すきだわ」と言っているような街づくりを、どのように作り上げて行けばいいかを考えました。

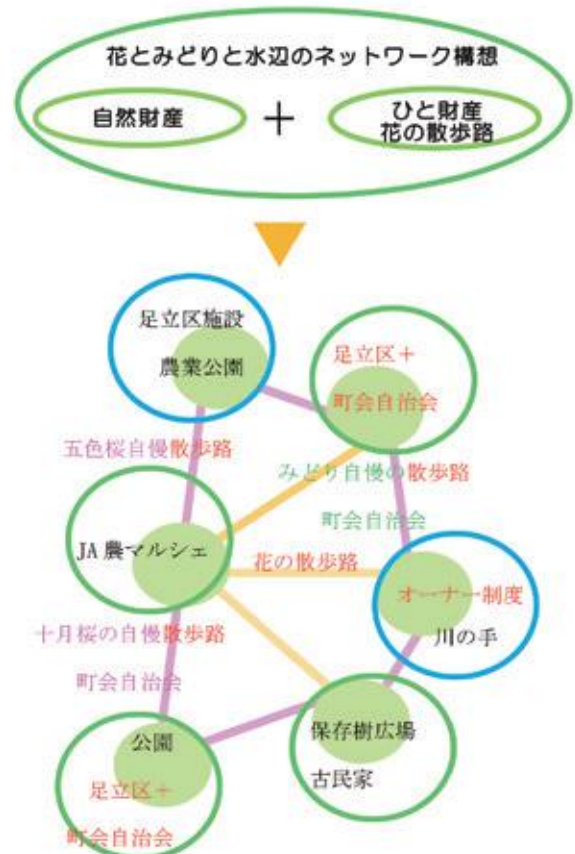
## 2018年/2年目 「花とみどりと水辺のネットワーク構想づくり」

あだち北西地区は、公園・農地・神寺・古墳等の花や緑と歴史を親しめる所が多く、日暮里・舎人ライナーの開通に合わせ「花の散歩路」という散策ルートが考案されました。

今でもルート近隣の町会自治会の方々には、花・木の見守り・水やりなどの手入れを行っていただいています。それらをつなぎ、町会自治会活動を上手く組み合わせる街づくりが出来ないかと考えました。

面としての地区資源の「自然財産」を「ひと財産で紡いだ花の散歩路」が線となって、沿道住民が景観美化活動に参加できる機会を促し、散歩で楽しく歩きたくなる、地元を好きになる街づくりができなかと考えました。

「花と緑のネットワーク」の散歩路整備と共に、はるかぜのようなコミュニティバス路線整備や、レンタサイクル「あだちゃり」のシステム拡充、荒川の水上バスなどもつなげると良いと思います。それらの地域参加は、あだち自慢の観光化にもつながります。



## ・「花の散歩路」支援活動拡大！

花の散歩路活動は、足立区が花と場所を提供し、町会自治会等が維持管理の植替え、水やり、除草を担当しています。

活動している方からは、散歩の方に感謝されたりして、地域貢献の励みになっているようです。

ネットワーク構想は、今活動している町会自治会に加えビューティフルパートナーの方の他にも自宅の玄関前など、区民が地域の景観美化づくりに参加して、地元を好きになるきっかけになるといいと思います。

## ・活動の見える化の名前も大切！

日本橋の事例ですが、花の資金を提供している企業を「花奉行」水やりなど管理している町会を「水奉行」として、活動の見える化を行っています。楽しい名前付も大切です。



ビューティフル・ウィンドウズ 2017年資料より

## ・桜資源の観光化

### 「花の散歩路+桜の散歩路」

地区自慢の桜資源がたくさんあります。いろいろな桜並木も加えて、「花の散歩路+桜の散歩路」として拡充させ、桜自慢の街づくりが観光化できないかと考えています。

### 「秋も花見に行こう！」

皿沼江北北部緑道の十月桜は、春と秋に開花する東京でも珍しい品種です。「秋の花見」観光の場として、区と協創の「十月桜秋まつり」や「桜の散歩路イベント」などで、区民や足立区を訪れる多くの方々に誇れる憩いと楽しみの場となる地域の桜資源の観光化を提案いたします。

他にも舎人公園のレーガン桜・伊興の寺町と遺跡の歴史散策・寺めぐり、新田ハートアイランドの近代的景観と川の手桜並木・荒川五色桜や「桜の森づくり事業」による応募人気の高い荒川土手のオーナー桜等、地域の桜財産もあわせた「花の散歩路+桜の散歩路」の拡充は、地域景観育成の場にもなると考えました。



皿沼江北緑道の十月桜：春と秋に開花



荒川土手のオーナー桜と記念メッセージ

## ・桜めぐり散歩路モデルルート/MAP参照

五色桜と共に北西地区の桜は成長し、多品種で多彩です。気軽に利用できる交通手段と共に、モデルルートを作成しました。日舎ライン 舎人公園駅 ⇄ 舎人公園レーガン桜 ⇄ 十月桜の散歩路 ⇄ 都市農業公園 ⇄ 荒川五色桜 ⇄ 日舎ライン足立小台駅 ⇄ 将来（荒川水辺を人気のオーナー十月桜並木を育成し北千住駅まで回遊し「あだち自慢」をさらに拡大させる。）

## ・子育てしたくなる街と散歩路ネットワーク

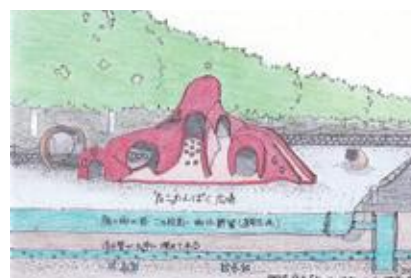
あだち北西地区には訪れて楽しい公園がたくさんあります。

足立区は、23区内1位の区立公園面積を有し、足立区発祥のタコすべり台が区内11ヶ所の内7ヶ所が日舎ライン沿線にあり、おもしろ遊具もたくさんあります。

子供の頃から、花やみどりに親しみ、花の散歩路ネットワークでつながれた公園を、親子での遊具散歩巡りなど子育てしたくなる街づくりも大切と考えています。



足立区のおもしろ遊具



街の水害を守るタコ



赤オニ

## 2019年/3年目 「あだカフェ・サードプレイス構想」

3年目の活動は「花とみどりと水のネットワークづくり」の散歩路の拠点づくりとして、町会自治会による地域活動の検討を行いました。

サードプレイスとは、地域において自宅や職場・学校などとは別の、居心地のよい第3の居場所を持ちましょうという考え方です。

北西地区を歩いてこの地域に何十年と住んでいながら新たな発見が数多くあり、今さらながら情報発信の仕方に問題があるように感じました。「あだち広報」・「ときめき」などを発行して区は情報発信をしています。区役所に来れば各部署でいろいろな興味を惹かれる小冊子をもらう事ができます。

しかしこれだけでは、多くの区民の方々に地元の魅力ある情報を伝える事は、出来ないと感じました。もっと地元密着の情報発信も欲しいと思います。

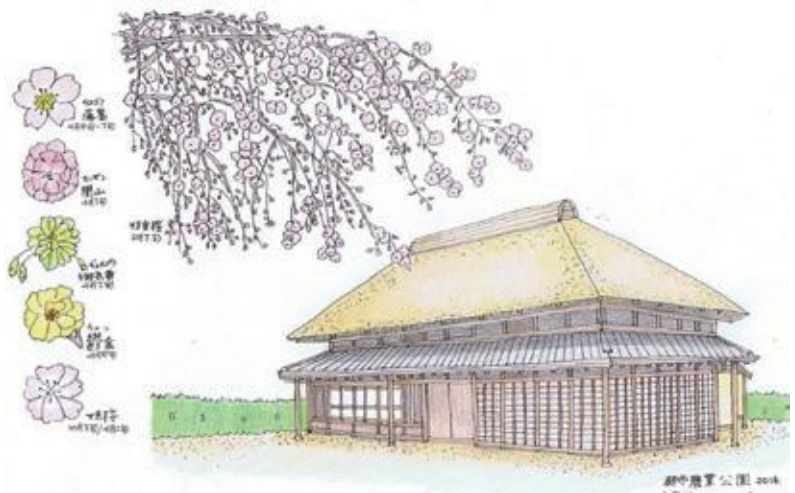
それともうひとつ感じたのが、花の散歩路沿いに休憩できるような場所やお店がほとんどないという事です。四国のお遍路さんの「おせたい」ではありませんが、休憩が出来て色々なコミュニケーションの場になるような所があれば本当に良いのにと感じました。



長〜いスベリ台

そこで私達は、行政と町会自治会、地元商店街、それに街の魅力がアップすることが、将来の自分たちのビジネスにプラスになるであろう企業や、地元の地主さんを巻き込んだ「サードプレイスづくり」を提案いたします。

「町会あだカフェ」「商店街あだカフェ」「地主さんあだカフェ」のような名称を付け、散歩に訪れた多くの人たちが気軽にお茶を飲んだり休憩をして交流のできる拠点となり、「区や地元の情報を発信するあだカフェ」なるものを、運営できたら良いのではないかと考えました。



多品種の桜が見れる都市農業公園に「農桜あだカフェ」を設けたり・・・

### ・越谷市事例より

越谷市では、地元の商店会と地元の企業が市の支援を受け、旧日光街道沿いに「越ヶ谷サード・プレイス事業」として、地域の使われていない建物を改装してベーカリー&コミュニティカフェという地域の為のカフェを開設しました。このカフェでは、越谷市の暮らしを楽しむ情報やイベント情報などの発信を行い、地元の人がギャラリー、レンタルスペースやレンタルキッチンなどを使って、個人で自分なりのイベントの開催を行う事も出来るようになっていきます。

#### ■地域インフォメーションセンター&お接待の場



- ・収益があることでより活発に活動
- ・まちなかの身近にある地域自慢のいこいの場
- ・気軽に立寄れる整理された行政情報発信の場

市民+行政

地元  
商店街

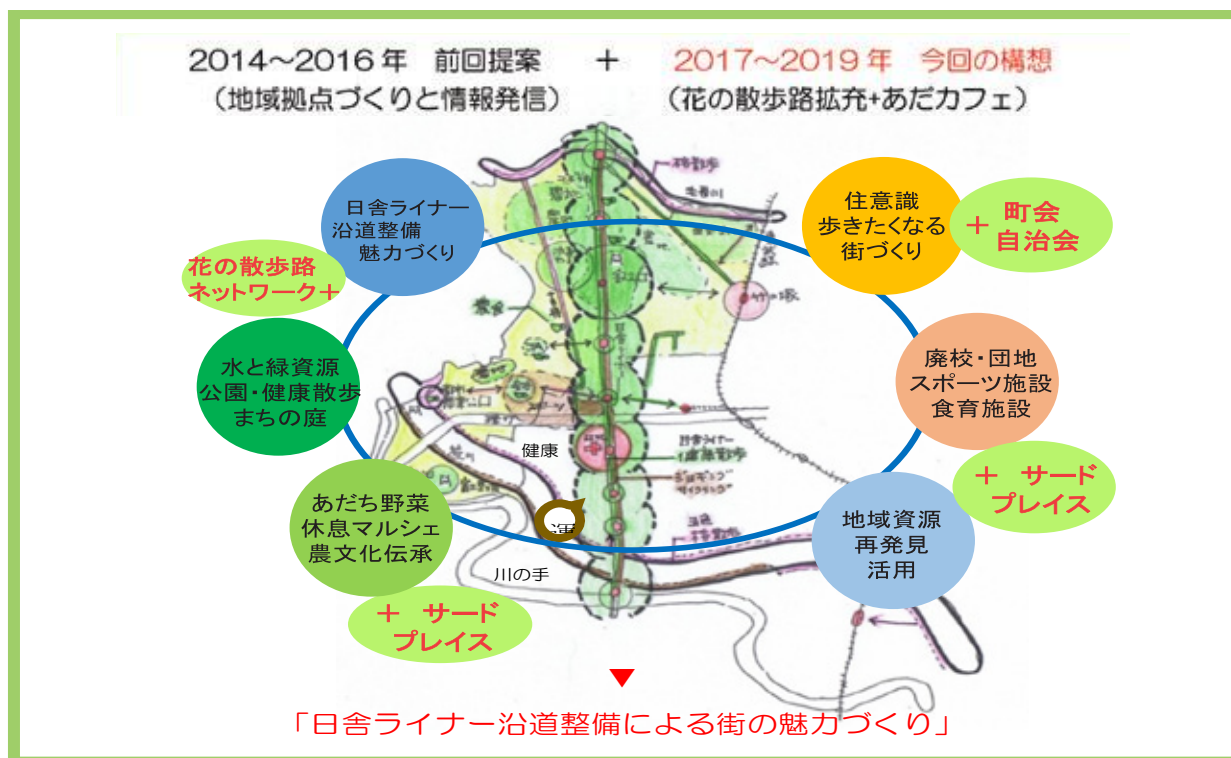
地元  
企業

私達の街でも町会自治会の事務所や地元の空き店舗、空き倉庫、駅の高架下などを活用し地元の人が気軽に利用出来る場所（サードプレイス）を作ることが出来ないかと考えました。

## ・ 前回 (2014～2016年) の提案と今回の提案

あだち北西地区には訪れて楽しい所がたくさんあり、「花とみどりと水のネットワーク」で花の散歩路を気軽な交通手段でつなげて、多くの人に訪れてもらいたいと思います。前回 (2014～2016) 北西地区日舎ライン沿線の特性を活かした地域拠点づくりと、地域情報発信の重要性をテーマに活動しました。

今回はその地域拠点を再考して町会自治会、地域区民が中心になり、気軽に立ち寄れて過ごせる場所サードプレイスを設け、そこに集まる人たちの中から、新たなアイデアが生まれ、地域が一層活性化されて住みたい住みやすい街に発展していく事を願っています。



## ・ 「花の散歩路とあだカフェMAP」

北西地区の「花の散歩路」は、町会自治会の方々の尽力により、人材の「ひと財産」が育成されています。その「ひと財産」と「地域のまち資源」を合わせて、「協創のまちづくり・散歩したくなるルート」をMAP化して提案いたします。

自分たちの街の魅力を再発見して、地元を一層好きになってもらい、魅力ある自分たちの街の財産を創り、守る町会自治会活動により、今以上に安心・安全・住みやすい街づくりに向けて、活性化されて欲しいと思っています。



花の散歩路活動中

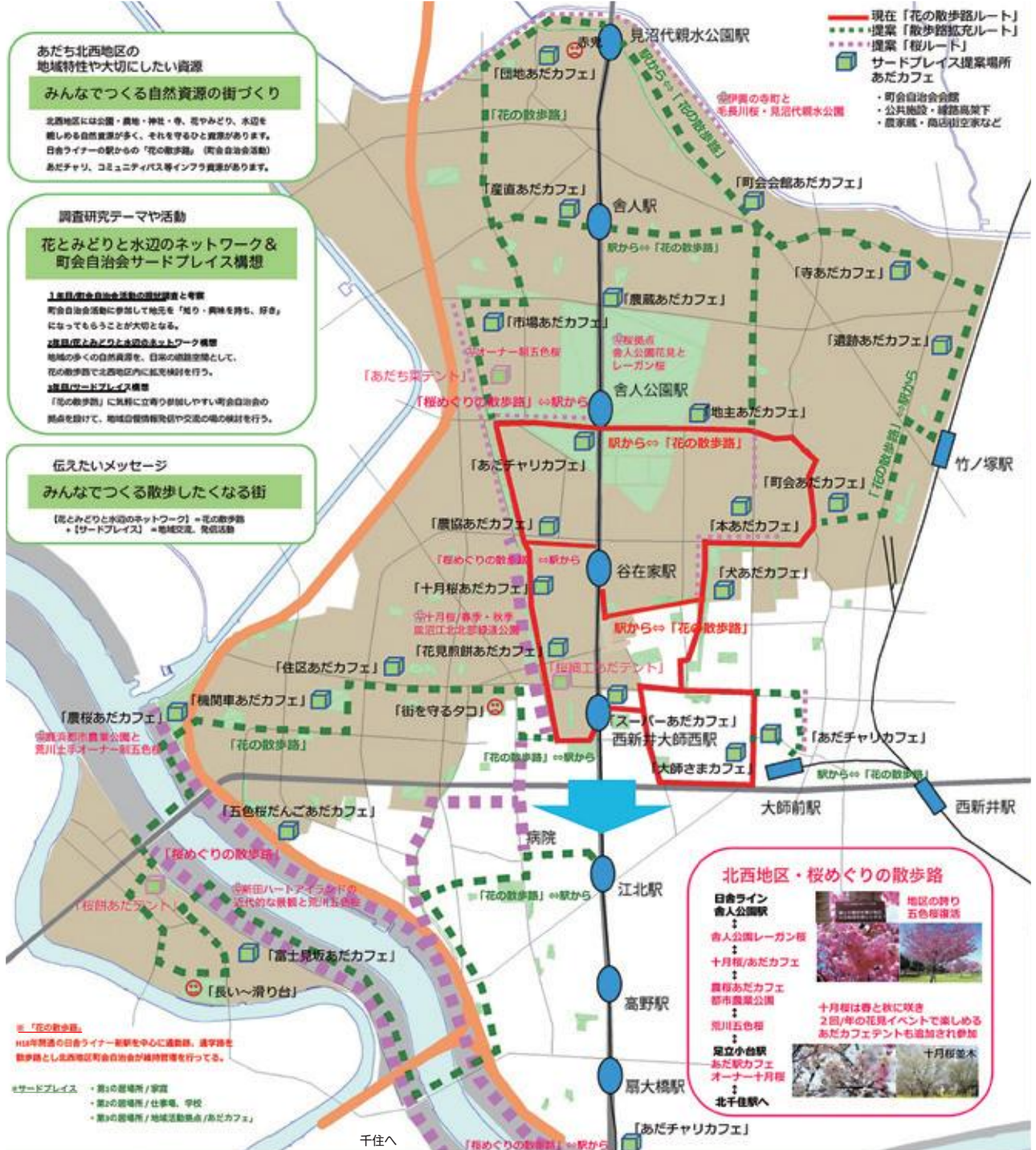
あだち北西地区部会

## ●まとめ

提案の町会自治会活動のキーワードは、「地域自慢・地元愛を育む」です。区の協創のプラットホームに、あだち北西地区を自慢して応援したくなる先人たちが残してくれた大切な地域資源を乗せ、楽しく活動ができるよう区の交流支援も受けて活用し、区民交流ができれば良いと考えています。顔の見える地域活動は、災害に強い、地域をより元気にする街づくりにもつながります。提案が町会自治会活動の活性化の一助になれば幸いです。

# ●「花の散歩路とあだカフェ MAP」

街づくり構想提案を具体的にした MAP です。



**あだち北西地区の地域特性や大切にしたい資源**  
**みんなで作る自然資源の街づくり**  
 北西地区には公園・農地・神社・寺、花やみどり、水辺を囲む自然資源が多く、それを守るひと資源があります。日合ライナーの駅から「花の散歩路」(町会自治会活動)あだチャリ、コミュニティバス等インフラ資源があります。

**調査研究テーマや活動**  
**花とみどりと水辺のネットワーク&町会自治会サードプレイス構想**  
 1. 町会自治会活動の調査研究と考察  
 町会自治会活動に参加して地元を「知り・興味を持ち、好き」になってもらうことが大切となる。  
 2. 農産物とみどりと水辺のネットワーク構想  
 地域の多くの自然資源を、日本の価値空間として、花の散歩路で北西地区内に拡充検討を行う。  
 3. サードプレイス構想  
 「花の散歩路」に昇昇し立ち寄りやすい町会自治会の拠点を設けて、地域情報発信や交流の場の検討を行う。

**伝えたいメッセージ**  
**みんなで作る散歩路になる街**  
 【花とみどりと水辺のネットワーク】= 花の散歩路  
 + サードプレイス = 地域交流、発信活動

**北西地区・桜めぐりの散歩路**

日合ライン  
 舎人公園駅  
 ↓  
 舎人公園レーガン橋  
 ↓  
 十月桜/あだカフェ  
 ↓  
 農協あだカフェ  
 都市農業公園  
 ↓  
 荒川五色桜  
 ↓  
 足立小台駅  
 あだ駅あだカフェ  
 オナー十月桜  
 ↓  
 北千住駅へ

地域の誇り 五色桜復活  
 十月桜は春と秋に咲き 2回/年の花見イベントで楽しむあだカフェデントも追加され参加  
 十月桜並木

あだち北西地区部会



**地域をつなぎ・つむぐ「花の散歩路」活動中**  
 町会自治会他：維持管理(耕種、水やり、除草)  
 あだち区：花と場所を提供

**十月桜花見会 北西地区桜めぐり~千住へ**  
 地域自然資源・ひと財源で観光化・自慢の街づくり

春季と秋季の「十月桜と花の散歩路」

**地域情報発信・交流「あだカフェ」**  
 サードプレイス(第3の居場所)づくりを区、町会自治会、商店街などと協議する。

「農協あだカフェ」多品種の桜が見られる都市農業公園

**子育てしやすい街づくり まちの底のような公園**  
 「たのしい遊具たち」

赤鬼 長い〜滑り台

# あだち北西地区部会研究発表について

## 地域の資源や資産、 人をつないで魅力を生み出す

素晴らしいですね。夢のあるプランなので、是非こういったまちづくりが実現すると良いなと思いました。そこに向けてのプロセスも見事です。僕は、学生たちに知らない地域に行って、調査をしてくるよう話します。公園でもいいのですが、1日そこにいて、毎日来ているような人に話しかけなさいと。学生は、アンケートをしなくて良いですか?と聞いてきます。でも必要ありません。知らない土地で、その土地を知ろうとするなら、その土地に住んでいて、その土地のことをよく知っている人に、ひとり聞けば大丈夫なのです。自治会、町会の方たちにまず聞いて、そして、すでにあるプランといたしますか、花の散歩路、これを体験してみて、もっと賑やかにできるとか、この地域はもっと良いものがある、それを拡充して新しく計画を実行していく。そして、反省して、さらにグレードアップしていくということです。

新しいものなんてどこにもなくて、皆さんがすでに持っているものがあり、土地の資源や、大切にしているものがあって、それらをうまく結びつける、あるいは、人と結びつける、そんなことの繰り返しで、それが成功した時に、みんなが笑顔になるまち、というのが皆さんの発表から感じるものでした。

ネーミングという意味では、サードプレイス、家とか職場とか普段いるところと違う、ちょっとボーッとしたりできるところのことで、公園や荒川は、まさしくサードプレイスですね。そんな場所があちこちに増えればいいというのは、まさに実感するところでした。

この地域は、舎人公園のほか、桜の歴史的資産もあります。それらの結びつきができてくると、さらに他の地域からも人がたくさん来てくださるようなポテンシャルのある場所だと感じています。

これからまだまだ変わっていく場所でもあるので、今ある財産を大切に結びつけ、皆さんでさらに磨きをかけられることを期待しております。



**鈴木 誠**

東京農業大学  
地域環境科学部造園科学科教授

# TX・竹ノ塚周辺地区部会

「トライアングルネットワークの形成と  
大学・地域とのまちづくり連携」

(推進委員)

山田 昌三    高橋 和彦  
石鍋 秀夫    榎本 富美夫  
西村 真海

(カウンセラー)

石塚 修一  
鮎川 博司  
市毛 英明  
佐久間 久恵  
松沼 勝



## ■地区の状況

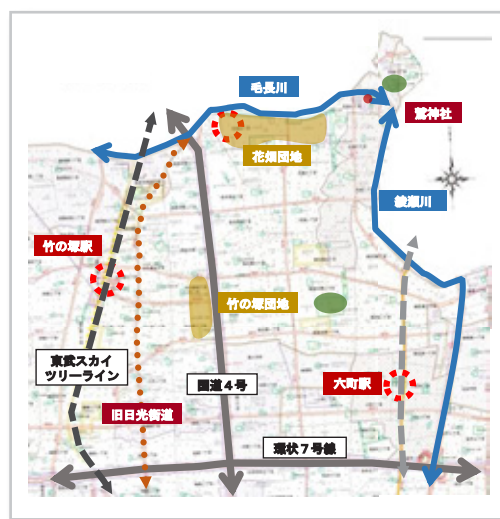
### ●TX・竹ノ塚周辺地区の位置

足立の北東部に位置し、地区西側を東武スカイツリーライン、北側は毛長川、東側を綾瀬川を境とし、南側を環状7号線で囲まれた大きなエリアです。また、草加市や八潮市とも接しています。

さらに、地区を南北に国道4号、旧日光街道、つくばエクスプレス等の重要な交通動線が縦断しています。

### ●まちの現状

地区の強みや良い所は、歴史的な資源やまちづくりの資源が豊富にあることです。



#### 歴史的な資源

鷲神や島根のお酉さま、保木間寺社群、旧日光街道など

#### 自然的な資源

毛長川、綾瀬川、毛長公園や遊歩道、桑袋のビオトープ公園など

#### みどりや公園施設

桜花亭、元洲江公園や総合スポーツセンター

#### まちづくりの資源

未来大学グラウンドや大規模団地である公共住宅群も多い



大鷲神社



毛長川



公園・遊歩道



保木間の寺社



ビオトープ



総合スポーツセンター



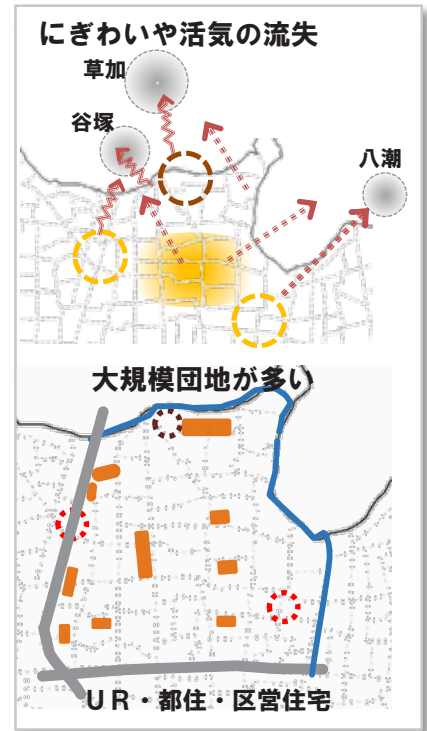
## ■まちの課題

### ●地区の弱点

- ・東西の交通網が脆弱で、利便性が低い  
(南北の交通網は、比較的充実していますが、これらを結ぶ東西の交通網が非常に弱い状況です。)
- ・周辺には商業施設やにぎわいの核がありません  
(特に、六町駅周辺では、新しいまちができましたが十分ではありません。)

### ●地区の脅威

- ・谷塚駅や草加駅では、賑わいもあり買い物の利便性も高く、谷塚駅は文教大学のアクセス利便性が高い  
⇒地区からのにぎわいの流出や分散の可能性が高い
- ・比較的大きな住宅団地が多く立地  
⇒住民の高齢化によるまちの活力低下が懸念される



## ■まちづくりの課題

地区内には、多くのまちづくり資源があります。

しかし、東西を結ぶ交通網が形成されていないことから、つながりが乏しく、せっかくの良い資源や施設の利用が阻害されている状況にあります。

そこで、多くの資源を活かし、これらを地区全体で利用するために、拠点となる地区の役割分担とネットワークをまちづくりのテーマとし、まちづくりへ向けた戦略的な対応を構想します。

### 《まちづくりの課題とねらい》

○まちづくりへ向けた地域の戦略的な対応がない  
・沢山ある資源が活かされない

視点 多くの資源や都市機能をネットワークすることで共有化し、利便性や豊かさを享受する！

### 役割分担とネットワーク

- まちづくりのねらい  
トライアングルネットワークの形成

## ■竹の塚地区のまちづくり構想の提案

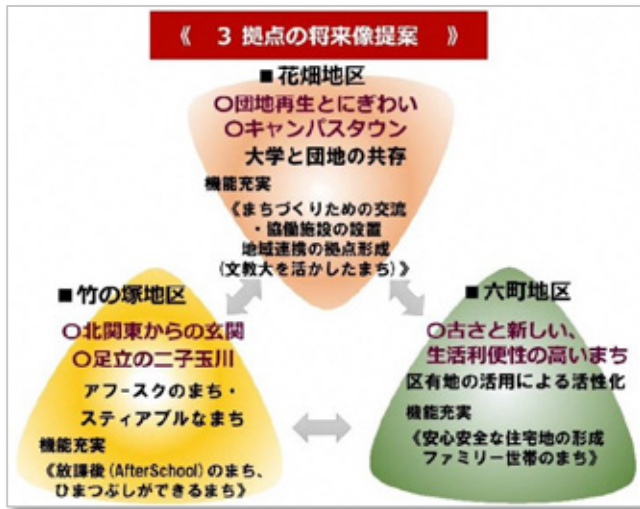


まちの現状や課題などを踏まえて、ネットワークづくりによるまちづくりに必要なキーワードや具体的なまちづくりの対応を提案します。

『トライアングルネットワークの形成と大学と地域のまちづくり連携』とします。

- トライアングル3拠点の将来像提案  
(竹の塚地区、花畑地区、六町地区)
- 大学と地域のまちづくりの連携
- 高架下の利用によるにぎわいづくりとサテライトキャンパスの計画
- トライアングルとその他のネットワーク計画

## ●トライアングル3拠点のまちづくりのイメージ



竹の塚地区では、鉄道高架化と大学の進出も活かし、「北関東からの玄関口として、文化の香り高い、学生のまち」を提案します。

花畑地区では、大学の進出を活かし地域との協働により「団地再生によるにぎわいとキャンパスタウンの実現」を提案します。

六町地区では、古くからのコミュニティが残ったまま、まちが新しくなりました。

テーマは、「安全で利便性が高い、<sup>ふるあたら</sup>古新しいまちの実現」を目指します。

### ①竹ノ塚駅周辺地区のアフ・スク、ステイアブルなまちの機能の充実

竹ノ塚駅周辺の東西一体となったまちづくりの推進や活性化に向けて、学生がまちに滞在できる、アフタースクールのまちを目指します。

竹ノ塚駅周辺では、アフタースクールのまちとして、滞在できる暇つぶしができるまちをつくり、学生とともにまちを活性化していくことを目指します。

- ・立体化によるまちづくりの動きを活かし再開発による店舗や施設の確保
- ・バイトや遊びなどで学生が時間をつぶせるまちをつくる

**ステイアブル(ひまつぶしができる)なまち機能の充実**

- 竹ノ塚拠点の役割⇒再開発や区画整理に合わせた機能確保
- ①竹ノ塚駅周辺のにぎわいづくりによるキャンパスとのネットワークの形成  
《学生のまちや生活のまちの実現》  
⇒アフ・スク、バイト、生活利便性
- ②パンケット機能を備えた宿泊施設整備  
⇒宿泊、宴会、会議室機能の確保
- ③高架下利用によるサテキャンづくり(大学との連携、人の交流拠点づくり)  
⇒大学と地域、学生と区民、社会人等の協働・協学施設の確保



写真提供 | 無料フリーエリアスペース  
学生が学生のために運営している  
学生施設無料フリーエリアスペース。



- ・大学のサテライト施設の開設による地域の活性化を図る  
(※アフ・スクとはアフタースクール、ステイアブルとは暇つぶしができるといふ造語です)

**団地再生のにぎわいとキャンパスタウンの実現**

○人の交流拠点、連携拠点づくり

- ⇒ キャンパスで、地域住民と学生とのかかわり(高齢者、学生等)
- ⇒ 竹ノ塚駅周辺で、大学と区民、社会人等








### ②花畑地区の大学と地域が

#### 共存するための連携拠点の形成

地域と大学や学生が直接関わりを持つことができ、施設等の開放とともに地域と協働でまちづくりを進めていくための施設づくりによる連携を提案します。

○まちと大学のまちづくり交流・協働

施設の開設や施設開放など

○大学や地域の足の確保、コミュニティバスやキャンパスバスの充実

### ③古いコミュニティが残り、

#### 生活利便性の高い『古新しいまちの実現』

古くからのコミュニティが残ったまま、新しい安全なまちの基盤が整備されました。

まちに必要な施設の誘致とともに、新しい住民が増えていくことで、まちづくりの可能性が広がっています。

さらに、都心への直通運転が可能となった北綾瀬駅とのネットワークの必要性も高まりました。

また、六町地区についても駅前の開発により大学との連携拠点などについても十分な可能性があります。

**安全で利便性が高い、古新しいまちの実現**

- 六町地点の役割⇒再開発や区画整理に合わせた機能確保
- バンケット機能を備えた施設  
⇒宿泊、宴会、会議室機能の確保
- 区有地の有効活用  
商業施設の誘致の早期実現  
・民間のにぎわい誘導、  
ショッピングモール、デパート

古くからのコミュニティ 活かす      新しいまちの基盤施設を 活かす

## ■大学・地域とのまちづくり連携

《 大学と地域の連携 計画 》

**花畑キャンパスでは**

- 人の交流・連携拠点づくり (仮称)地域交流推進室等の開設

- ・大学の多様な可能性と地域のニーズとをマッチングさせ、大学の教育研究のテーマに即した学びの場の構築
- ・大学を地域へ開放し、交流しながら、相互に学び合う場をつくる
- ・大学は地域との連携を深めてこそ、存在意義がある  
⇒大学 図書館機能やサロン、食堂、会議室等の充実した施設の活用  
⇒多様な教育的資源 (様々な専門分野) を活かした地域連携

出典：文教大学「東京あだちキャンパス」開設イメージムービーより

近年、大学教育や活動において地域との連携が重要なテーマになっています。

#### 提案のポイントとして…

- ・花畑キャンパスでは、大学教育と地域の利便性向上を連携で実現
- ・地域の活性化に向けた大学や大学生との協働の可能性と役割分担

この大学と地域の連携に関する先進事例と地域連携に関する考え方を提案します。

### ○アーバンデザインセンター柏の葉

東大、千葉大が中心となり、行政や民間企業も参加して地域の課題解決に取り組んでいる事例。駅には大学のサテライト施設が立地し交流や連携を促進している。

### ○二子玉(ニコタマ) 夢キャンパス

東京都市大学の夢キャンパスでは、地域が気軽に利用できる多目的スペースを開設し、イベントを通じて大学生が主となり地域との連携や活性化を実現している。

● 東京大学「UDCK アーバンデザインセンター柏の葉」

**組織と運営**  
7つの構成団体により、共同運営  
(東大、千葉大、柏市、三井不動産、柏商工会議所、柏中地域ふるさと協議会、首都圏新都市鉄道)

**理念と役割**  
基本的な理念は「公・民・学の連携」  
地域密着型のまちづくりシンクタンクとして、市民と行政、企業、大学などとの協働・対話を通じた地域まちづくりを推進

● 東京都市大学「二子玉川夢キャンパス」  
夢をカタチにするために作られたサテライトキャンパス

- 夢キャンの活動テーマ
  - ・学生が主体となってイベントやまちづくりへ対応
  - ・地域の課題を解決する
  - ・学生も地域と一緒に学んで学ぶ
  - ・学生と地域住民、子供との交流

夢を映し出すデジタルサイネージ「電子掲示板」      駅周辺の立地に集まれるサテキャンとまちづくり連携

情報読書学習コーナー      くつろぎスペース      多目的スペース

## ●大学との地域連携の考え方のまとめ

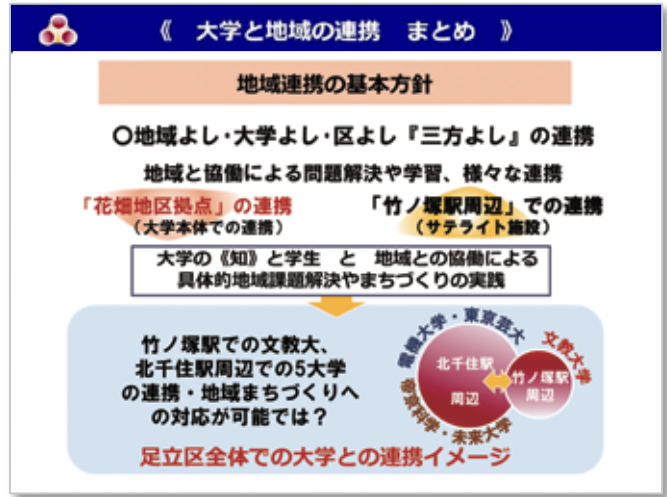
地域連携の考え方では、「三方よし」の連携でなければ、継続的な取り組みは難しいと考えます。

- ①まずは、地域が良い
- ②次は、大学のメリットが生まれる
- ③さらに足立区にメリットが生まれる仕組みをつくる

このことで様々な可能性が広がり、色々な支援も得られると考えます。

区内には5つの大学もあることから、今後、区内大学のまちづくり地域連携などもできると素晴らしいと思います。

その一端を、竹の塚のサテライトキャンパスで実現できるとよいと考えています。



## ■高架下の利用によるにぎわいづくりとサテライトキャンパスの計画

竹ノ塚駅では、高架下の利用が可能となることから、まちに必要な機能や活性化のための高架下の活用事例を提案します。

### ●活性化のための高架下活用事例

#### ① 2540 アキオカ・アルチザン

職人のまちとしてもものづくりをテーマに高架下利用を進めている秋葉原と御徒町間の高架下の事例です。あだちブランドや産業活性化にも活用可能です。

#### ② 中央ラインモール nonowa

三鷹から立川駅間の約9kmの連続した高架下空間をまちづくりに活用する中央線の高架下の事例です。

#### ③ 身近な梅島駅の高架下利用

東武鉄道でも保育園やフィットネスクラブへの活用例が他地区でも見られます。

#### ④ 高架下のサテライトキャンパス活用

地区部会では活用の第一候補として、大学との地域連携のためのサテライトキャンパスの設置を提案します。

立体化や再開発を利用して施設をつくり、花畑キャンパスとのつながりを強化し、ステアブルなアフ・スクのまちによる活性化を目指すことを提案します。

# ■トライアングルとその他のネットワークの計画

地区の利便性をより向上させるために3拠点をつなぐための交通や歩行者のネットワークの提案です。

★3拠点連携と核づくり  
— トライアングルネットワーク

★東西ぐるりんバス  
— 東西交通ネットワーク充実  
・分担した役割を享受するためのネットワークの確率

★緑の骨格プロジェクト ナナヨングロス  
・環七、国四の街路緑化の充実によるイメージアップ

★回遊性、地域内観光のネットワークを形成する  
・春夏秋冬、四季の公園めぐり、歴史、神社の史跡ネットワーク

★毛長川等河川と特徴ある緑のつながり  
・かわの辺の道ぐるっと構想 (2015 フォーラム提案)

## ①交通ネットワークの形成

東西ぐるりんバスなどのコミュニティバスやキャンパスバスなど、大学と足立区が協働した取り組みが重要です。

このことで大学と地域に相互メリットが生まれます。

## ②回遊性、地域内観光のネットワークの形成

多くのまちづくり資源を活かし、散策ルートも駅から街中へ、川辺の連続した空間へとつなげ、3拠点の活性化とともに奥行きのあるまちの形成を図ります。

また、毛長川と特徴ある連続した公園や緑を繋ぐ、『かわの辺の道ぐるっと構想』なども重要なネットワークの一つとして提案します。

## ③ナナヨングロス、緑の骨格づくり

最後に当地区は南側を環状7号線、中央に国道4号が通過しています。

この2つの幹線道路のイメージは、足立区や地区のイメージの骨格を形成することになります。

そこで、この国道と都道の緑化を充実し、緑豊かな地区イメージを形成するためのネットワークとして、『ナナヨングロス、緑の骨格づくり』として提案します。

《トライアングルと周辺エリアへのネットワーク計画》

①交通ネットワークの形成

トライアングル、他エリアへの《交通のネットワーク》

- 各種バスルートの充実・東西ぐるりんバスの充実
- ・コミュニティバスの充実 (六町・竹の塚、花畑回地)
- ・大学とも協働でバス便の充実 (キャンパスバス竹の塚や六町へ学生を運ぶ)

《トライアングルと周辺エリアへのネットワーク計画》

②回遊性、地域内観光のネットワークの形成

- 歩行者ルートの充実
  - ・散策ルート、帰り道ルート
  - ・四季の公園めぐり、歴史、神社の史跡ネットワーク
- 毛長川等河川と特徴ある緑のつながり
  - ・かわの辺の道ぐるっと構想 (2015フォーラム提案)

《トライアングルと周辺エリアへのネットワーク計画》

③緑の骨格プロジェクト (ナナヨングロス)

- ・地区や足立区のイメージ向上
- ・ネットワークのかなめ

- ・環状7号線、国道4号の街路緑化
- ⇒みどり豊かな(?)足立区の骨格イメージをつくる
- ⇒地区及び足立区の中央をクロスするみどりの軸づくり

## ■最後に、メンバーの思いを一言

最後に、3ヶ年研究してきた中でのメンバーの思いです。  
それぞれの地区へのまちづくりの思いは様々です。  
夢も含めてまとめました。中には、超長期的な課題もあります。  
提案の内容は簡単にできるとは考えていませんが、少しでも前に進んで実現できればと考えています。



### 《3年の活動で… 望む必要なまちづくり一言》

#### ①鉄道立体化に伴うまちづくり

- みんなが集えて、考えて、活動できるサテライトキャンパス・まちづくりセンター
- 高架下の有効活用として、エリアデザインとしての統一が必要
- イベント会場の新設  
(ミニ集会やミニコンサートなどの開催)
- 高架下のまちづくりセンター、コミュニティなどの憩いの場かけ出し横丁(屋台村)のような楽しみ出合いの場、便利な場所として考えていく
- コミセンは交流広場(老若学生子供)、託児所や大学生による観光案内や話し合いの場

#### ②文教大学進出に伴うまちづくり

- 学生、若者をターゲットにしたお店、施設づくり
- キャンパス(花畑)と竹の塚を結ぶバス路線の強化(東西グルリンバス)
- インスタ映えするパワースポットの創出や紹介(神社、公園など)

#### 中長期計画として…

#### ③ホテル宴会場の誘致

- 竹の塚周辺では、100人規模の会議や宴会をする場所がないので将来的に施設をつくりたい

#### ④花畑地区の願い(長期計画)

- 軌道敷内を走る(鉄道路線)交通機関の誘致、延伸(舍人ライナー等)
- バス路線の強化(鉄道優先)

以上

# TX・竹ノ塚周辺地区部会研究発表について

## まちを受け継ぐ主体として学生を育てていく

私は、人と人をつなぐことにより地域課題を解決する、コミュニティデザインを専門としています。千住地区以外に大学がやってくることで、皆さんのご期待が非常に高いということが感じられるご発表でした。

文教大学の立地が、「TX・竹の塚周辺地区」から若干、外れているところで、どのように学生を呼び込むかということが大きな課題になると思います。アフ-スク、それからスティアブル、さまざまな構想は良いと思いますが、傾向としてありがちな、まちと大学との連携だけに終わってしまわないようになさってください。もう少しミクロなレベルで、学生をどのように地域に引き込んでいくのか、そして、まちを受け継ぐ主体として、学生をどのようにまちづくりに参加させながら教育していくのかという視点がとても大事になると思います。

大学との連携では、さまざまな事例、特に、東京大学、それから東京都市大学をご視察されていますが、特に東京都市大学の夢キャン、この活動テーマにある、学生が主体となってイベントやまちづくりへ対応、こちらをご参考になさるといいのではないかと思います。

とかく地域連携のなかでは、大学生をボランティアとして当日だけ呼んできて、働いてもらうというようなことがありますが、学生を「地域を受け継ぐ者」として育てるならば、企画の段階から学生を入れていくと、学生自身にまちをハンドリングする感覚が身についていくのではないかと思います。それが、地域を受け継ぐ者として、自分の考え方や意思決定が地域を動かす力になっているということを実感する機会となります。そのような機会をまちが提供することにより、まちが、学生を引き込む大きな力になっていくのではないかと思います。

こうした取り組みを積み重ねていくことにより、学生の地域への定着、地域への学生の呼び込みというものが、増えていくのではないかと思います。非常に素晴らしい発表、ありがとうございました。



**森下 一成**

東京未来大学  
モチベーション行動科学部教授

# 扇・西新井地区部会

「西新井大師を中心としたその界隈の賑わい」

(推進委員)

乾 雅 榮  
北澤 敏博  
多賀 正行  
原口 秀子

梶 公 一  
黒川 秀昭  
田中 実

(カウンセラー)

牛込 哲也  
大熊 喜昌  
佐藤 英夫  
中島 勝正



## 【1】. テーマの検討

近年、都営交通の日暮里・舎人ライナーが開通して沿線地区は、まちの様子が変わりつつあり、発展途上にあると言ってもよい地域である。

この地区のまちづくりを考えるに当たり、この地区にしかない地域資源は何かと検討した結果、西新井大師ということで一致した。

当地区のまちづくりを考えるテーマを「西新井大師を中心としたその界隈の賑わい」とした。

### (1) 観光資源としての西新井大師を活かすために何をするのか

- ①西新井大師へ人の勧誘
- ②西新井大師周辺の環境整備
- ③西新井大師への歴史的古道跡を物語りにして街を繋ぐ

### (2) 西新井大師をより多く知るため次の行動をした

- ①江戸時代より西新井大師参詣のために大師に向かういわゆる大師道と呼ばれるルートが多くあった。その中から本郷から繋がるルートを選び歩いてみた。現在の北区田端新道から江北・扇を経て、西新井大師まで約10km、3時間30分かかった。

その道は、その当時の場所とほぼ同じ所に有り、沿道には道標や石碑、祠が残されていた。



歩き始めの起点である橋元酒屋前  
(田端新町、道標西新井大師道)

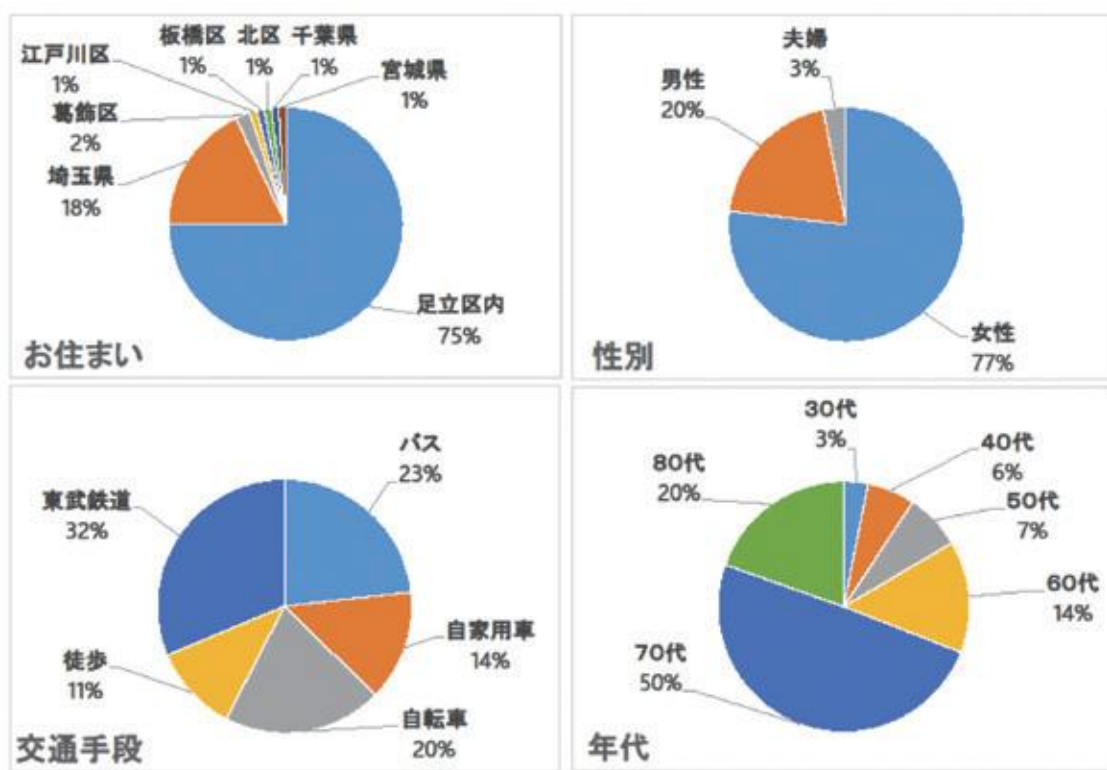


江北駅前胡禄神社内(道標弘法大師道)



②西新井大師への参詣者は何処からどのようにして来ているのか年齢層と共に8月の縁日でアンケート調査を行った。

アンケート結果は、男女共70代以上が65%で、その性別は男性20%女性77%で、全体の75%が足立区内からの来訪という特徴が見られた。(正月三が日や牡丹の花咲く時など特別行事の時期では無い)



## 【II】. 西新井大師を観光資源として活かすことを検討した

### (1) アンケート調査から見た課題

- ①参詣者の年齢と居住地に偏りがある。
- ②幅広い年齢層、特に若年層に来て欲しい。
- ③足立区以外の都内・近県から交通機関を乗り継いででも来て欲しい。

### (2) 西新井大師とその界隈の期待する情景

- ①いつも若さと活気を感じられる大師様でありたい。
- ②縁日以外の日も行きたくなる場所であって欲しい。
- ③いつも商店街に活気と潤いをもたらせたい。
- ④NO.1 といえるものが欲しい。

## 【III】. 新たに進出してきた企業経営（ホステル運営）に学ぶ

### (1) 西新井駅近くに海外バックパッカー観光客を対象にしたホステルが2015年12月にオープンしました。その特徴と売りは・・・

- ①宿泊費用が低料金である。
- ②外国人向けおもてなしとして西新井大師への参拝、書道、着物の着付け、握り寿司等のカルチャー体験イベントを行っている。
- ③観光地浅草まで20分と近く、下町であることが外国人に人気でその利用が大半である。

## (2) 当部会からホステルへの働きかけによる国際交流活動

当部会では、このホステルの運営活動のなかで外国人旅行者に対し茶道や着物着付けなどの文化体験を誘っている事に注目し、以下二回のイベント提案をして実践しました。

### ① 餅つきの体験提案

外国人宿泊客を、足立区の施設「関原の森」で年の暮れに行われる餅つきを体験してもらいました。



外国人の餅つき体験にホステルスタッフも同行



愛恵まちづくり記念館を背景にお餅を食べる

### ② 盆踊りBBQパーティで宿泊客と交流

当地区まちづくりメンバーで、ホステル2階のBBQ広場を利用したの暑気払いの計画を立てていたところ、外国人宿泊客との交流場面をTV取材したいとの申し入れがあり協力する事にしました。

また、そういうことならと近隣の関原東町会の踊りの方々も急遽、参加してくれることになりました。当日は、ホステルの交流の日に入入りしている常連の地域のご家族も参加して、盆踊りBBQパーティとなり賑わい国際交流の場となりました。



ホステル2階広場での盆踊り BBQ パーティー



宿泊客、ホステル運営者、盆踊り有志及び当部会メンバーによる記念写真  
 (この準備のために、ホステル宿泊中の外国人も材料の買い出しに参加して頂き、  
 東京下町商店街の雰囲気を楽しんでもらいました。)

当部会の暑気払いが、外国人観光客と地域、そしてテレビ局まで巻き込んだイベントとなり、参加者全員の記憶に残ったと感じます。

## 【IV】. 提案：観光資源としての西新井大師を活かすために

(1) 現在の西新井大師のことをもっと知る為、僧侶に境内をご案内頂きました。(気に留まった事)

①お砂踏み結願のお参りができる



一周すると四国八十八か所を巡ったと同じご利益がある

②山門を改修し5メートル程セットバックした。



敷石にある黒い印は従来有った山門の位置を示す

③本堂を免震構造とした。



これが免震装置

④地元出身の元大関栃東（玉ノ井部屋）が優勝したときに国技館で飾られた優勝額が、今は御大師様の不動堂にあること。



⑤写経を体験できること。



(2) 西新井大師とその界隈に外国人を含む多くの人に訪れてもらう為に考える事、行動すべき事、或いは既に実施されている新たな活動など

①尾竹橋通り大師道アーチについて

尾竹橋通りアリオ付近に、西新井大師への導（しるべ）として、周辺の商店会が中心となって2008年（平成20年）に、まちづくりトラストと有志の寄付で設置されました。

お正月の人通りがかなり増えたと好評です。



②地元住民と来訪客とが交流できる場所やイベントを知ってもらう。

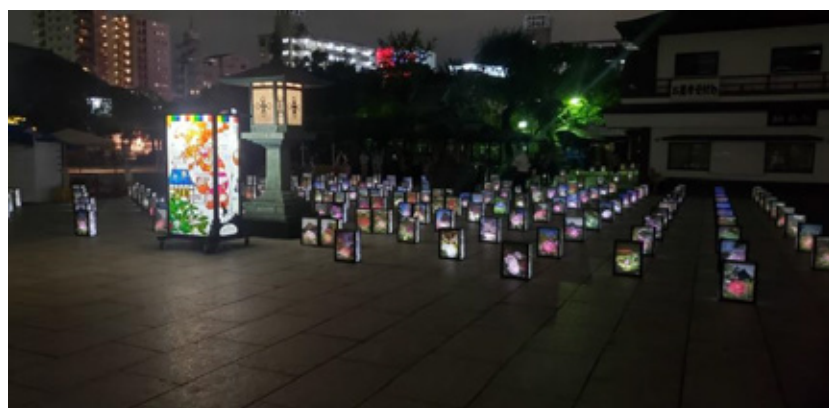
アリオ西新井・西新井大師・西新井大師商栄会タイアップ企画について今年から、西新井アリオにて花まつり、万燈神輿・風鈴祭り・謎解きイベント等のPRを行っております。これも、「大師道アーチ」と同じく、アリオのお客様を大師に誘導することに一役を担っています。



アリオのだるま (大師の案内)  
このだるまは、西新井大師に奉納される予定



藤や牡丹の花咲く頃



行燈まつり



夏の風鈴祭り

### ③万燈神輿巡行について

西新井大師商栄会では、4月の「花まつり」の時期に「万燈神輿巡行」を行います。この時にホステルの外国人観光客を招いて神輿体験をおこなっています。商店会の「花半纏」を借用し、西新井大師様よりご寄附の草履を着用。

このお神輿体験がきっかけで商店会の女性がホステルのゲストと知り合い、結婚して現在、メキシコで暮らしているという。



境内でお祭り神輿を担ぐ

④地元商店街で子供や外国人への体験型のイベントを増やす。現在もミニだるま作りやベーゴマ体験等のイベントが、予定または開催されている。

⑤来訪客(特に外国人) に向けた交通やトイレなど、インフラに関する整備及び案内を判りやすくする。



地元商店街(商栄会)の作成した外国人向けガイド

# 扇・西新井地区部会研究発表について

## 西新井大師を中心としたまちの賑わい

ご発表どうもありがとうございました。西新井大師の魅力が伝わってきました。私は、文教大学で福祉を専門にしております。文教大学は、2021年に国際学部、そして経営学部が花畑の「東京あだちキャンパス」に移設いたします。国際学部には、国際観光学科もございますので、是非こういった活動は、地域連携を一緒にしていきたいなと思いました。

本日のご発表について、異なるものとの組み合わせが、いい意味での相乗効果を生み出していると思いました。1つは、西新井大師という伝統的な施設と、新しいエンブレムホテルとのコラボレーション。私も両方、訪れたことがあります。その時、こちらの取り組みを知り、とてもいい取り組みだと思いました。

2つめは、ローカルとグローバルの組み合わせ。地元、それぞれ下町のあたたかささまざまな国から訪れた方々。その組み合わせが、お互いにより効果を生み出しているということ。

3つめは、観光というと観るだけの、受け身の体制になりますが、体験するという、観光客の方が主体的に参加する活動を取り入れていらっしゃるというところ。観るだけではなく、参加、主体的に行動するという両者の組み合わせがあって、とても楽しいものになっていると思いました。

国際社会福祉の分野からひとつだけ、今後、こういうことをしてほしいということをお話しします。先ほど、区長のお話にもありましたが、今後、足立区は外国人の方、観光客だけではなくて生活者の方も増えてくると思います。そうした方々を巻き込んで、この西新井大師をどうつくっていくのか、ということをご検討いただけると良いのかなと思いました。

また、観光資源と外国人の接点ですが、観光資源だけでなく、足立区には、いろいろな社会資源もあるので、地域の社会資源との接点による国際交流を図っていくことも今後ご検討いただければ、さらに良いのかなと思いました。



**森 恭子**

文教大学  
人間科学部人間科学科教授

## 7. 区長コメント

### 6 地区部会の研究発表について

足立区長 近藤 やよい

ご発表では、それぞれの地域で駅を中心としながら個性のある所を取り出していただきました。印象深かったのは、課題は山積していますが、その課題を足立のポテンシャル、可能性、資源と捉え、それぞれの地域でまちをどう良くしていくのかと前向きなご提案をいただけたこと、非常に頼もしくありがたく思いました。

一方、資源、ポテンシャルがありながら、点で終わっているところを、行政がうまくコーディネートして、線にできず活用できていないという反省も感じました。今日、ご提案いただいた可能性を単に可能性として終わらせず、苗を大きく育て5年10年先に実をつけたり、花を咲かせたりする、そんなまちづくりに区としても取り組んでいきたいと思えます。

最後にもうひとつ。カウンセラーや推進委員の皆様には、本当に前向きに考えていただいています。一方で、まちづくりというのがあなたまかせ、誰かがしてくれるという依存的な考えの方もおられます。もちろんお仕事や子育てが忙しく、時間をそういうことに使えない方が大勢いることはわかっています。けれど、そこに生活する当事者として、時間がないなかでも何かまちのために関われることがあるのではないか、という動機づけをどう行っていくのか、皆様に続くまちづくりのパートナーをどう掘り起こしていけるのかということが、これからの足立区にとっては大きな課題だと考えています。

それぞれのライフスタイルに合った形で、まちづくりに関わっていただけるようなネットワークを作っていくことが、非常に重要だなと思えました。皆様の思いにどれだけ、区役所として応えていけるのか、これからもネットワークをきちんと繋げ、皆様と繋がっていきたいと思えます。

皆様が考えたことをただ提案するだけでなく、実現していただけるような予算の手立てというものも、トラストなどを含めこれからも考えていきたいと思えます。

3年にわたり温めていただいたものを、すばらしい形で発表していただいたことに、重ねて御礼を申し上げます。ありがとうございました。



## 8. 講 評

各コメントーターのご専門分野から、まちづくりの提案に対するご意見をいただきました。



### 専門的な視点から足立区の防災について

このまちづくりフォーラムで皆さんの提案を受け、これをどうしていくのが重要です。形にするのは、提案を受けた行政と提案をした地域の方々の協創、一緒になって何を創っていくかということだと思います。当然、時間がかかること、短期的にできること、中長期的なことがあると思います。明日からでもできそうなものもあると思います。そういうことを、みんなで意識し合うことが重要だと思います。

さて、災害多発時代にあって、まちづくりのみならず、やはり人づくりも重要なことだと私は考えます。そして、それを防災の視点で考えていく必要があります。例えば、私たちが、日頃から街を見る中で、何がどうなるのか、どんなことが起こるのか、ということをしかりと想像することが重要だと思います。

今回の台風、荒川は結果的には何もなかった。しかし、上流の熊谷では、河川が危険水位を超えていました。多摩川も首都圏の川というのは、今回すべて危険水位を上回っています。幸いにして荒川は、下流の岩淵水門のところで水位が低かった。なぜなら、潮位が一番低かったからです。あの時、仮に満潮ならば、最大水位が、9メートルを超え、どんなことが起こったかはわからない。その意味で、このまちに住んでいる私たちが、まちとか、人とか、災害ということを考えながら、発信していく、要するに行政と連携しながら、命を守る取り組みを進めていく、これが重要です。私は、ここがポイントだと思います。

いくら行政が頑張っても正しい避難の呼びかけをしても、動くのは私たちです。被害が起こる地域に住んでいる私たちが動くのです。まちづくりや人づくりを日頃から考えて、それを実践していくということは、とても必要なことだと思います。

最後に、台風19号の時、結果的に足立区は、3万3,000人の方が避難しました。そういう災害であり、かつ、課題はたくさんありました。その課題を検証し、振り返り、何があって、どう改善するか、これが今、私たちが一緒になって取り組んでいくことです。



**松尾 一郎**

東京大学大学院  
情報学環総合防災情報研究センター客員教授  
足立区総合防災行政アドバイザー

## ユニバーサルデザインの視点から見るまちづくり

地域の特性を大切にしたいまちづくりについて、ユニバーサルデザインの観点からお話します。特性というのは、単純に特性だけのこともありますし、それが課題として見出されることもあります。これは問題だよねということに、どう立ち向かい、何をしていくのか、そういう観点から考えると課題があることは、まちをみんなで作っていくための土台になる部分があると思います。

6地区の皆さんが、それぞれの課題を発見し解決のためにさまざまな知恵を出されたこと、提案をつなげていくため人との関わりを作られたことが、課題を見つけることからつながっているのだと思います。

ユニバーサルデザインの考え方から申し上げますと、使う時に不便や問題がないよう、あらかじめ考えていこうというのがその考え方です。しかし、使っていくうちに人の状態も変わり、社会の状態も変わります。すると新しく別の課題が見出され、どのように改善していくのかということに常に考えていく必要があります。

今は問題ではないが、こういうことは問題になるのでは、ここはもっとよくなるのではということを見つけながら暮らしていくのは、大切なことです。もっと良いものがあるのでは、もっと良い自分があるのでは、もっと良いまちがあるのではという感覚、そういうものを探しながら続けていくことが豊かさをつくっていきます。

特性に関しては、今、特に大切だとは思ってなくても、次の概念、次の価値を見出していくと、大切な特性になっていく部分もあるのではないかと思います。例えば、古い建物がたくさんある、道が狭い、ごちゃごちゃしている、これはまさに特性です。そこに近い関係があり、人情味あふれる下町ですという価値を見出すことで、是非残したい資源になります。特性を大切にすることは、まさに、この資源化、心理的な資源化をしていくことではないかと思います。

皆さんが生活者としてまちに暮らし、人との関わりを持っていらっしゃることがきっかけになっていくのだなということを感じました。



**山田あすか**

東京電機大学  
未来科学部建築学科教授

## 大学連携の広がる可能性

足立区の地域特性のひとつに大学が加わりましたが、大学生という存在は、4年間という時限的な存在として足立区に迎えているように見えます。しかし、学生の中には、足立区民もおりますし、最近では、足立区をよく知るにつれ足立区に住みたい、働いてみたいと考える区外出身の学生も生まれつつあります。

足立区の「地域活性化大学生プラットフォーム」に、本学はいち早く参加し、昨年の夏から足立区内の企業のバスツアーに学生を参加させています。足立区内には、どんな企業があるのか？どんな仕事をしているのか？学生たちは自身の経験により学びます。その時、足立区内の企業の社長さんは、自ら出てきて企業理念を語ってくれたりするのですが、そのような体験の中で、いつしか足立区に愛着を感じ、進路として足立区内に住み、働くことを思い描く、そのような学生が出てくるようになりました。



**森下 一成**

東京未来大学  
モチベーション行動科学部教授

足立区が大学を誘致して十数年になります。協働・協創の現場に出ると、学生をどう活かすのか、住民の皆さんがまだまだ戸惑っているところがあります。自分の子どもでも孫でもない学生、地域を知りたい、地域に親しみたいと入ってくる学生をどう扱っていけばよいのか、迷っていらっしゃる。そのような光景を前にすると、足立区の新たな地域特性である大学を地域がどう受容していくのか、まだまだ過渡的な段階にあるのかなと思っています。

関三通り商店街の祭「関三まつり」の活性化に携わって3年が経ちました。最初の頃は、本当に住民の皆さんと学生の関わりがぎこちなかったのですが、先月に行われた3年目の祭では、商店街の人々が学生に歩み寄り、積極的にコミュニケーションを図りながら、学生との個人的な関係を確立する姿を見るようになりました。事後のアンケートなどでも、その商店街にコミットして良かった、充実した学びとなったという感想を述べる学生が増えてきています。まちが学生を育てる好例となってきています。まちづくりは「ひとづくり」なんです。

地域連携というと、大学という組織そのものを相手にするところがありますが、実際に学生個人は、ボランティア活動や地域連携活動を通じて、自らのキャリアを構想し、構築する、その意欲を育んでいくものだと思います。

是非、皆さん、学生を育てる、そして足立区の地域の継承者を育てる、その視点で、学生との協働に向かっていただければと思います。

## 足立区のまちづくり、国際社会福祉の視点から

国際社会福祉の観点からお話したいと思います。足立区では、生活者としての外国人の方が増えていて2018年の統計では2万9,726人、現在は、3万人を超えていると思います。足立区の人口比にしますと約4%。日本全体の総人口に占める外国人の方の割合は2%なので、その2倍と非常に多くの外国人の方が住んでいます。

足立区では、2009年、区民に外国人に対する意識調査をしています。身の回りに外国人が増えることについて望ましいと思う人が約15%、望ましくないと思う人が約20%、そしてなんと望ましくない理由が、犯罪・トラブルが増えそう、文化生活習慣が違ふ、意思の疎通が難しい、それから社会的負担増などがありました。

そんな中、足立区は2018年に、「多文化共生推進計画」の基本理念を改定し「ちがいを豊かさ—言語や文化、習慣の異なる人々が協働・協創で築く多文化共生都市あだち」としています。さまざまな地域社会を構成する住民を巻き込んで、まちづくりをしていくということだと思います。

この推進計画の中で多文化共生により新たな文化・価値を生み出す「まち」という柱があり、そこでいくつかのご提案がされていますが、そこにプラスして提案させていただきたいと思います。日本の入国管理法が改定され、外国人労働者の方が、ますます入ってこられます。是非、外国人の生活者を巻き込んで、まちづくりをしていただければと思います。

例えば、私は、福祉施設に外国人を連れて行くことも行っていますが、外国人の方は、自分もボランティアをしたいと、おっしゃる方が多くいます。そこをつなげていく、サッカーの得意な方、絵やお料理が上手な方、いろいろな方がいらっしゃる。それぞれの特性を活かしてボランティアとしてまちづくりに参加していただくとよいと思います。外国人の生活者の自立にもつながりますし、足立区が多文化共生、それから地域共生にも、外国人の方々が今後ますます貢献できると思います。是非、両者の良いところを活かした協創のまちづくりをしていただければと思います。



**森 恭子**

文教大学  
人間科学部人間科学科教授



## 推進委員会の活動とまちづくりフォーラム

本日は、とても勉強になりました。今日のお話は、足立区のまちづくり総合政策会議のようで、区のいろいろな部署の方たちにも聞いていただきたいと率直に思いました。

また、本日、ここにお越しいただいているコメントーターの先生方、すばらしい人たちが、足立区を見守ってくださっていることを実感しました。

私は、大学が世田谷ですが、世田谷には行政の長みたいな人や会社のコンサルタントのような人が住んでいたりします。そこで、経営の仕組みや区民参加という話題の会になると、そういった知識を持った人が登場します。20数年前、足立区にもこういう区民がいないといけなと思ったのですが、今日のお話を聞いて、専門的ですし素晴らしい。このような素晴らしい区民が沢山いて、活動されているのは、本当にありがたいことです。

ハードとソフトの話があり、社会資源としての自然、それから素晴らしい企業もある、それから人、これだけ関心を持って行動を起こしている方たちがいる。これを点ではなく、線につなげて面にしていかなければいけない。将来に向けて、良くしていくために、つなげることで、足立区のそれぞれの地区のコミュニティとして、タイムラインで将来像を考えていく必要があると思います。

最後に、皆さんに是非、参加していただきたいことがあります。私がお手伝いをしている「第三次足立区緑の基本計画」、この中間案が、そろそろまとまります。そして、来年の春頃にパブリックコメントをいたします。この中身を見ていただき、皆さんに、もう少しこうした方が良いのではないかとここは良い点なので是非頑張ってほしいなどの意見を出していただきたい。それが、次の段階、実行する力・協創力になっていくと考えております。

「第三次足立区緑の基本計画」、足立区社会資源としての自然、緑、水、そういったものを今後10年間かけて、どう守り、どう使い、みなさんが参加して使えるようにしていくのかというプランを練っておりますので、その実現に向けての、ご助力もお願いして、私の講評とさせていただきます。ありがとうございました。



**鈴木 誠**

東京農業大学  
地域環境科学部造園科学科教授

## 8. 閉会挨拶



まちづくりフォーラム実行委員長  
乾 雅榮

只今、ご紹介をいただきました、まちづくりフォーラム実行委員長の乾でございます。

本日お忙しい中、お越しいただいた区議会議員の皆様、町会・自治会をはじめとする各団体の関係者の皆様には、フォーラムにおつきあいいただき、厚く御礼を申し上げます。

本日ご来場の区民の皆様におかれましても、ご多忙の中、長時間にわたりご聴講をいただき、心より御礼を申し上げます。

また、コメンテーターの先生方には、貴重なご意見を賜り、感謝申し上げます。ありがとうございました。今回の発表内容を今一度精査してさらに実効性のあるものとしていきたいと思えます。

本年のフォーラムは、3年に1回の開催になって初めてのことであり、元号が「令和」になってから初の開催となりました。平成27年度までは、1年ごとに研究の成果を発表してまいりましたが、今回から3年間の時間をかけ、今日という日を迎え、足立区への提言発表としてまとめることができました。今後のまちづくり施策の一助となれば幸いです。

まちづくりは一朝一夕には進みません。日々の地道な取り組みが大事です。

また、まちづくりは誰かが単独で出来るものでもありません。区民・行政・各種機関等が協力してはじめてまちづくりは前進します。まさに、「協創」の

理念をもってこそ、実りあるまちづくりの花を咲かせることができるようになります。

さて、本日のフォーラムのサブテーマを「足立のまちをもっと知って、楽しいまちづくり」とし、進めてまいりました。まずは、ご自分たちの住むまちを知ることが大切です。そして楽しく知ることが、まちづくりの取り組みを続けていくことにつながります。

私たちの取り組みは小さな一歩かも知れませんが、粘り強く継続して取り組み、住み続けたい人がひとりでも増えることを目指して、一層努力をしていくことを目指していきたいと思えます。

本日は誠にありがとうございました。

# 10. 参考資料



## (1) まちづくり推進委員会活動紹介パネルの展示

まちづくり推進委員会の活動

### まちづくり推進委員会とは

#### 組織目的

協創のプラットフォームである推進委員会が地域住民の視点で捉えたまちづくりの課題や特性を調査研究しその成果を

- ▶ まちや地域、行政との共有化を目指します。
- ▶ まちづくりが地域に広がる

【まちづくり推進委員会】の組織

組織目的：まちづくり推進委員会の役割  
 平成29年度 足立区まちづくり推進委員会が設置された  
 平成30年度 まちづくり推進委員会の活動が開始された  
 令和元年度 まちづくり推進委員会の活動が本格化された

#### 構成団体

まちづくり推進委員会 + まちづくりカウンスラー

#### まちづくりへの効果

まちづくりへの効果①

- 1 地域のキーパーソンであるまちづくり推進委員が地域の課題や特性について理解を深めること
- 2 まちづくりの協議場としてまちづくり推進委員会へ求めた情報を提供して参加し、地域との関係の相互共有を図ること
- 3 まちづくりの先導者・先駆者である推進委員が知識と経験を地産する。

まちづくりへの効果②

基本構想の将来像、**「協創力でつくる活力あふれ進化し続けるひと・まち 足立」**の実現を促進する。

まちづくり推進委員会とは

まちづくり推進委員会の活動

### まちづくり推進委員会の活動をご紹介します。

#### 先進事例視察会

まちづくりの研鑽のため、課題となるテーマの先進事例の視察を行っています。

平成29年度 茨城県常総市「防災(水害)のまちづくり」  
 平成30年度 千葉県千葉市「地域コミュニティを活性化させる団地再生のまちづくり」  
 令和元年度 足立区「足立区内の大学連携と地域防災について」

高層ビル建設現場の視察  
 高層ビル建設現場の視察  
 足立区千住地区のまちづくり

#### まちづくりの調査研究活動

地域に密着した活動を進めるため地区部会を設置して、調査・研究活動をしています。

#### まちづくりフォーラム(推進委員会活動報告会)

まちづくりの啓発、まちづくり団体の育成と、地域の課題等を調査・研究する地区部会活動の発表の場として、まちづくりフォーラムを開催しています。

まちづくり推進委員会活動の紹介

まちづくり推進委員会・地区部会の活動

### 千住地区

#### 千住の景観を活かしたまちづくり

●千住地区の地域特性や大切にしたい資源

千住はかつて江戸四番の一つで、川州に「千住島川むらさきのみもと」と銘ばれるまちでした。旧日光街道に残された旧家跡、社寺仏閣・銭湯・定立市場・西本陣突等の名所等を継承しながら、下町らしい情緒ある「跡地(築地)文化」そこに残る人情など先人が残してきた目に見えないものを次世代に伝えていける環境づくりを目指したい。

●調査研究テーマや活動

「千住地域の特性に合わせたまちづくり」

- 1 千住の景観について：ビューティフル・パートナー活動参加の声かけ等
- 2 水害・災害について：防災用扉の設置能力強化の提案等
- 3 千住地区の活性化について：「人情下町、ぶらり旅」構想

●伝えたいメッセージや音楽等

北千住においては、住みたい街の一つとしてランキングして、若い世代にも親しまれてきていますが、千住の伝統、文化も伝えながら「誰人でもよかった街」になればと思います。

千住地区部会

まちづくり推進委員会・地区部会の活動

### 東部地区

#### みんなで参加する地区開発、交通網及び河川防災整備で、安心・安全の構築。

●東部地区の地域特性や大切にしたい資源

・都心への直通地鉄駅(北綾瀬)の交通網整備・利便性が図られる街。  
 東京武蔵野を中心とした雑居商店街の活性化への再整備計画の域発展をめぐす街。  
 中川及び荒川の水・緑の環境保全と併せて、防災対策の強化推進を進めている街。

●調査研究テーマや活動

- 1) 雑居地区開発について。  
・開発地区の環境及び商業環境の整備と提案。
- 2) 北綾瀬駅周辺のまちづくりについて。  
・駅周辺工事完了の駅前整理及び今後の商業環境の整備。
- 3) 地下鉄8号線について。  
・地域開発活動の機材・物資及び運送状況の調査。
- 4) 中川の防災について。  
・防災対策のプラットフォーム化と防災意識の向上と防災意識の向上。

●伝えたいメッセージや音楽等

・まちづくりの第一歩、4K1  
 街への「関心(Kanshin)・感動(Kandou)・観察(Kansatsu)そして行動(Koudou)で、

東部地区部会



まちづくり推進委員会・地区部会の活動

### あだち中央地区

## 次世代へ、 またその先へ、 今の想いを繋ぐまちづくり

●あだち中央地区の  
地域特性や大切にしたい資源

＜位 置＞  
東は越前川、西は東原・西新井・本木に接し、南は荒川、北は環状七号線に囲まれた地区  
町名では中央本町・青井・弘通・西横瀬・足立・梅田・船原・梅島・島根

＜地域特性＞  
立東武スカイツリーライン南西側  
…水造住宅密集地域（ほぼ全域）  
立東武スカイツリーライン北東側  
…都市基盤の未整備地区が70%

＜大切にしたい資源＞  
足立区本庁舎、藤沼跡地とその駅、  
各地の風景、寺社・史跡

●調査研究テーマや活動

＜テーマ＞  
梅島駅前日光街道沿道 まちづくり提案  
安全安心そして活性化へ

〔平成29年度〕 建築「バスレーン化、梅島小学校用地を  
活用、梅島駅北側民間活用」

〔平成30年度〕 西原町の方とアランダ、  
船歩き、そして調査

〔令和元年度〕 実現可能性について  
足立区と協議・周辺町の方と意見交換

●伝えたいメッセージや言葉等

＜まちづくりは次世代のために想いを込めて＞  
補助138並びに255号線や南北横断線の道路網が整備される梅島・西新井地域で、  
次世代の人々への「まち」を築くのは現世代の人々の想いの結晶

あだち中央地区部会

まちづくり推進委員会・地区部会の活動

### あだち北西地区

## 安全・安心・ 住みやすい街づくり & 町会自治会

～花とみどりと水辺のネットワーク & 町会自治会サードプレイス構想～

●調査研究テーマや活動

＜テーマ＞  
「花とみどり」を軸とした  
「水辺のネットワーク」

＜調査研究テーマ＞  
「水辺のネットワーク」  
「花とみどり」を軸とした  
「水辺のネットワーク」

●伝えたいメッセージや言葉等

＜まちづくりは次世代のために想いを込めて＞  
補助138並びに255号線や南北横断線の道路網が整備される梅島・西新井地域で、  
次世代の人々への「まち」を築くのは現世代の人々の想いの結晶

〔花の散歩道・街白樺・あだカフェ〕MAP

あだち北西地区部会

まちづくり推進委員会・地区部会の活動

### TX・竹ノ塚周辺地区

## トライアングル ネットワークの 形成と大学・地域との まちづくり連携

●TX・竹ノ塚周辺地区の  
地域特性や大切にしたい資源

区の北東部に位置し、TX六町駅や東武竹ノ塚駅  
などの交通施設や歴史的大国神社、文教地区と  
なりうる花畑団地など、まちづくりの拠点となる施設  
が立地しています。

また、毛長川や特産ある緑豊かな公園、古くからの  
コミュニティを醸成する寺社も多く残っています。  
これらの拠点施設や歴史、多くの公園や自然を区民が  
親感できるネットワークのまちづくり。

●調査研究テーマや活動

第一の研究テーマは、「花畑、六町、竹の塚  
の3拠点のまちにおける必要機能や役割分担  
と周辺資源もぎめたハードとソフトのネット  
ワークの形成です。」

第二のテーマは、「文科大学の進出にともな  
う大学と地域のまちづくり連携」に関して、  
他事例の研究とともに必要な連携機能につ  
いて調査をまとめました。

●伝えたいメッセージや言葉等

大学の教育機能や学生の進出を契機ととらえ、可能な  
施設の増設開放と新たなまちづくり人である大学、学  
生の参加による地域のまちづくり活性化を目指す。

TX・竹ノ塚周辺地区部会

まちづくり推進委員会・地区部会の活動

### 扇・西新井地区

## 西新井大師を 中心とした その界隈の賑わい

●扇・西新井地区の  
地域特性や大切にしたい資源

近年、都交交通の日暮里・西新井ライナーが開通  
して沿線地区は、まちの様子が変わりつつあり、発  
展途上にあると見てもよい地域である。  
この地区のまちづくりを考えるにあたり、この  
地区にしかない地域資源は何かと検討した結果、  
西新井大師ということに一致した。

●調査研究テーマや活動

これまで当地区部会では、江戸本郷から  
繋がる大師道の存在を実際に巡り、文化の  
余韻を感じてきた。

そこに西新井大師を観光資源とするホス  
テル運営に賛同し、地域の協力を得て交流  
しながら「西新井大師を中心としたその界  
隈の賑わい」をテーマとして、日本文化の  
体験事業を進めている。

●伝えたいメッセージや言葉等

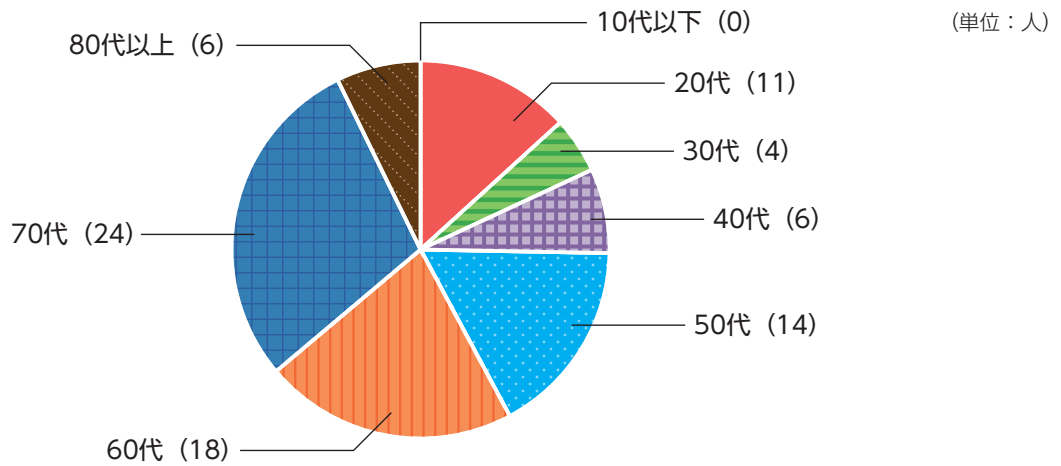
西新井大師も門の改修や建物耐震化、或いは  
お砂踏みができるなど進化している。

私たちは西新井大師という貴重な財産をより  
よく知り、関東周辺に頼らず外国人観光客に及  
ぶまで、その財産と関連する文化を知らせ・体  
験して貰い、交流する場を、地元商店街と共に  
作り上げていきたい。

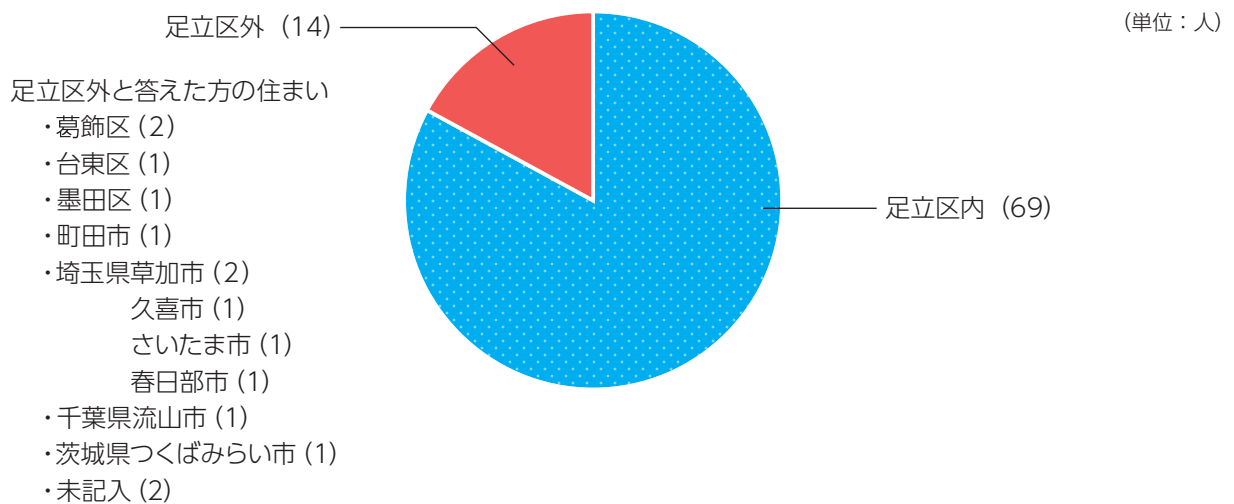
扇・西新井地区部会

## (2) アンケート集計結果 (回収83枚)

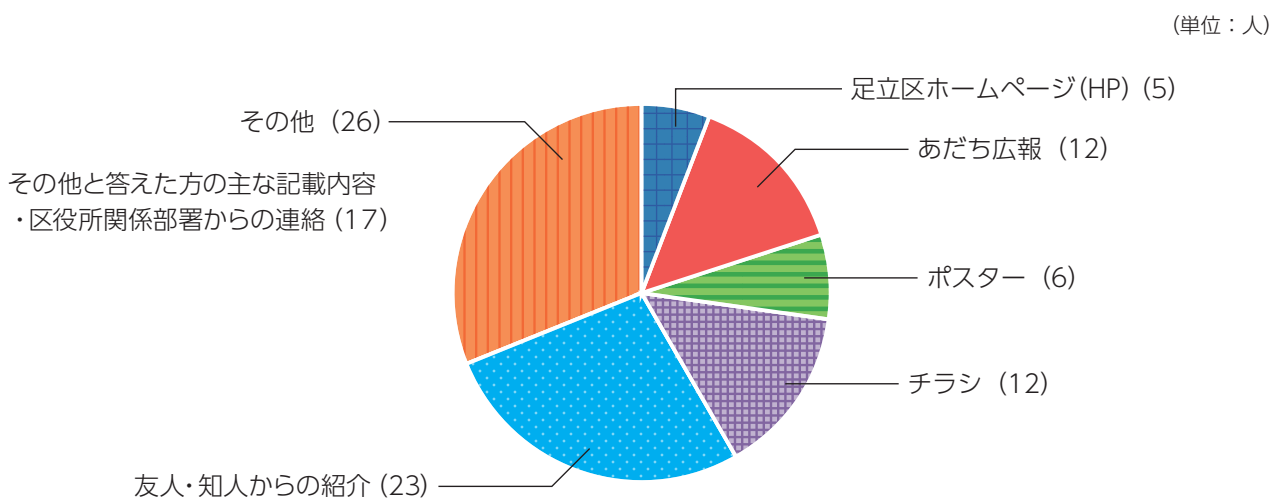
### 問1 年齢



### 問2 お住まいの地域



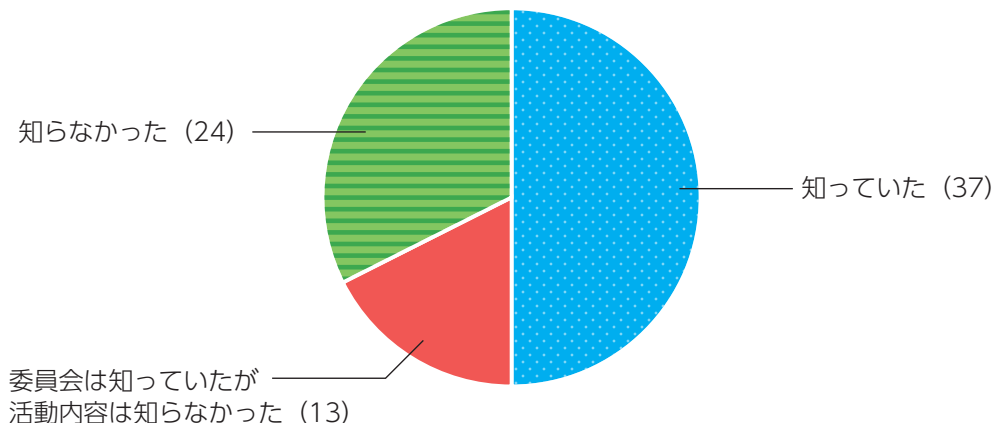
### 問3 本日のまちづくりフォーラムは、どのように知りましたか (複数回答可)





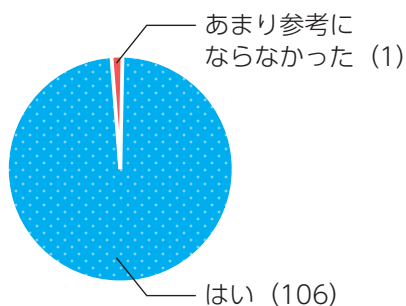
#### 問4 本日の推進委員・まちづくりカウンセラーの活動はご存知でしたか

(単位：人)

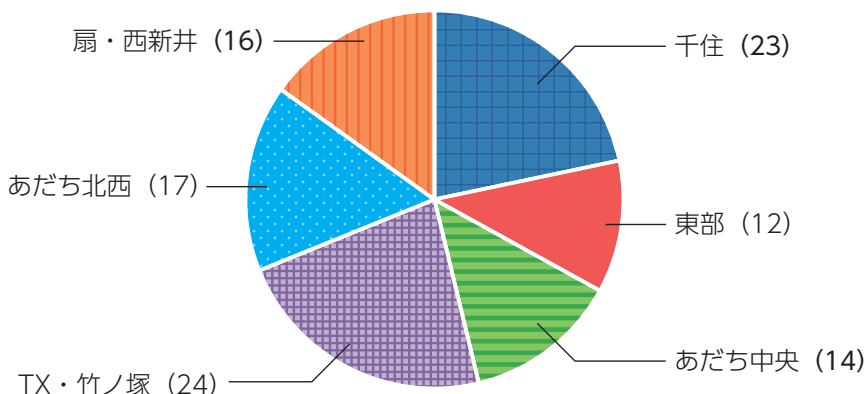


#### 問5 本日の推進委員会の発表で、まちづくりの参考になる内容がありましたか (複数回答可)

(単位：人)



##### 【参考になった地区や内容について】



#### 問5 各地区の発表で参考になった内容

##### 【全体的な内容】

- ・すべての地区が地域の生活者の視点からの提案であり、推進委員会の醍醐味を感じた。
- ・足立区の地域ごとの課題・特性を知ることができた。防災、協創などの視点を今後に生かしたい。
- ・自分の地区部会はもちろん、他の部会もそれぞれの地域特性を生かした取り組みをしていることがよくわかった。
- ・コメンテーターの評論が有意義だった。
- ・町内の小さなことや意見を聞くことが、大切だと感じた。
- ・どの地区も協創で解決すべき課題が見えてきた。
- ・同じ活動でも視点を変えて考えることが必要だと思った。
- ・どの地区も地域特性を生かす良い提案があり、参考になった。

##### 【各地区部会の内容】

##### 千住地区

- ・まちづくり（景観整備）は防災であること。
- ・電柱のない街、桜並木の整備の提案が良かった。
- ・ハザードマップや水害対策が、実体験と重なり印象的だった。
- ・違反広告物の撤去等が、まちづくりに大変役立っていること。

## 東部地区

- ・土地（地域）開発の方向性と課題が把握できた。
- ・まちづくりの一步、4 K（関心・感動・観察・行動）を活用したい。
- ・中川の防災対策として、タイムラインの作成と実践が参考になった。

## あだち中央

- ・バスレーン化は、斬新な提案であった。
- ・歩車道の段差解消は、今後の重要な課題である。
- ・梅島在住であるため、梅島駅前の歩道が広くなれば良いと実感した。
- ・道路空間の再配分（歩道幅員の拡大）は良い指摘である。
- ・歩道の自転車通行等について、沿道商店街へヒアリングを実施するなど、真剣さが伝わった。

## あだち北西

- ・第3の居場所づくりである「サードプレイス」は、素晴らしい発想である。
- ・地域の町会自治会と連携する住民のつながり方は、参考になった。
- ・「あだカフェ」はどんなまちでも実施でき、ストーリー性がある。
- ・花の散歩路や自然資源の活用と、PRの必要性がよく分かった。

## T X・竹ノ塚周辺

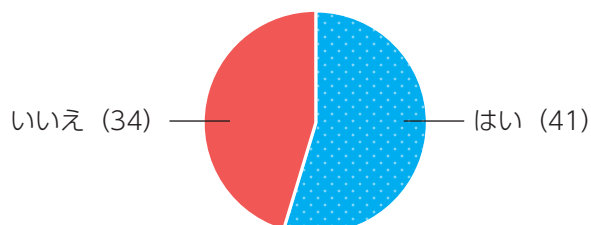
- ・学生と地域住民とのつながり方の提案が良かった。
- ・地区を全体的に俯瞰して考察できていること。
- ・花畑、竹の塚、六町のトライアングルネットワークは良い提案だと思った。
- ・高架下の活用は、にぎわいづくりに重要な提案である。

## 扇・西新井

- ・西新井大師に外国人が大勢来ており、地域住民との交流が進められていることが分かった。
- ・西新井大師のポテンシャルの高さを、改めて感じた。
- ・ソフト面で地元住民が主体的に活動している点が、参考になった。

## 問6 推進委員会活動紹介のパネル展示はご覧いただけましたか

(単位：人)



## 問6 パネル展示 「はい」の方の感想

- ・発表の内容をわかりやすく視覚化し、展示していると思った。
- ・住民へのアプローチになっていると感じた。
- ・6地区のエリア分けが確認できた。
- ・持続して研究する大切さが読み取れる。
- ・見やすいパネルであり、多くの人に理解してもらえたと思った。
- ・各地区の活動の概要が、うまく要約されていた。

## 今回のまちづくりフォーラムの内容に関する意見や感想

- ・地域の人々と、まちづくりに取り組むことが大切である。
- ・誰もが理解できるハザードマップの必要性を強く感じた。
- ・全体に夢があり楽しい話で心和んだ。
- ・防災、観光等いろいろな角度から足立のまちづくりを考えることができ、大変良かった。
- ・「まちづくりは防災」と話された識者の言葉が印象的だった。
- ・大学教授が5名も参加して格調高いフォーラムだった。大学連携のPRにもなって、素晴らしく感じた。
- ・提案事項の実現には予算が必要だが、財源は大丈夫か。
- ・地域と行政との協創が、まちづくりの実践、まちの発展につながると思った。
- ・台風19号により、まちづくりの弱点が明らかになった。今後、これらの弱点を克服するために、どのように対応していくかが重要な課題であり、楽しみでもある。
- ・提案内容に共感して聞いた。より多くの区民や関係機関の方々にも聞いていただければ、実行する時に大きな力になると思った。
- ・住民が自分のまちをどう考え、何を目指しているかが、垣間見えて勉強になった。
- ・多様な活動がつながると、新しい何かが生まれる。つなげる活動を拡大すると、まちづくりが面白くなる。
- ・「学生ボランティアにまちづくりの企画段階から参加してもらおう」というコメンテーターの意見に賛同した。
- ・まちづくりは、防災・福祉医療・観光、みんなつながっているのだと改めて感じた。
- ・地域によって切り口が異なるところが面白かった。また、提案がどこまで実現できるか追跡調査も必要と感じた。
- ・若い世代（学生、子育て）の視点を、積極的に取り入れたまちづくりに期待している。
- ・日常生活が当たり前に出てくるのは、人と人のつながりのお蔭であることを強く実感した。
- ・私も主体的に街を良くしていきたいと、個人としても思える日になった。
- ・地域活性化に多くの方々に参加し、努力されていることを改めて認識した。
- ・まちづくりは地域を愛し、そこに住む人との強い絆が必要である。人と人の絆が深まれば、まちづくりは必ず成功し、豊かな地域が実現すると思う。
- ・まちづくり推進委員の活動が継続することで、足立区もより一層、変わっていくと思う。課題は、いかに多くの区民を巻き込めるかである。
- ・地域の方々が、自分たちのまちは自分たちで創るという気概が感じられた。これを自治体との協創まで持っていく強い意志で、今後も進めていただきたい。
- ・普段、なかなか知ることのできない地域のまちづくりの提案を聞いて、面白かった。
- ・発表を聞いて、まちづくりの可能性がまだまだあると感じた。多方面の方々が、まちづくりの研究をされていることに感心した。
- ・まちづくりを考えるのに、委員やアドバイザーと区民が話し合える場（ワークショップ）を作って欲しい。

令和2年3月23日発行

発行 足立区まちづくり推進委員会

編集 第29回あだちまちづくり  
フォーラム実行委員会  
東京都足立区中央本町 1-17-1

印刷 株式会社丸庄  
東京都足立区千住 4-16-12

※本事業は、公益信託あだちまちづくり trusts の助成を受けています。